

## 中国におけるリメイクドラマに関する研究：日中ドラマの比較分析を中心に

著者	周 翠彦
著者別名	ZHOU Cuiyan
ページ	1-42
発行年	2021-03-24
学位授与年月日	2021-03-24
学位名	修士(国際文化)
学位授与機関	法政大学 (Hosei University)
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00024546">http://hdl.handle.net/10114/00024546</a>

# 修士論文

指導教員 岩川 ありさ 准教授

論文題名

中国におけるリメイクドラマに関する研究

——日中ドラマの比較分析を中心に

国際文化研究科 国際文化専攻修士課程

氏名 周 翠彦

## 論文要旨

国際文化研究科 国際文化専攻 修士課程  
周 翠彦

### 1. 研究概要および研究目的：

近年、中国の文化市場の発展と共に、テレビドラマの視聴率に対する需要も日々高まっている。中国の国産ドラマだけでは、ドラマ市場のニーズに満足できない。そのため、海外ドラマのリメイク版の制作と放送をすることも視座に入れるようになった。フジテレビとSMGピクチャーズは2015年11月、戦略的パートナーシップを締結して以来、二作の日本ドラマの中国版を日中共同制作し、中国で放送・配信してきた。その後、中国では日本の IP（知的財産権）を購入するという形で日本ドラマがリメイクされ、中国市場に多く出回ってきた。

本研究は、中国における日本ドラマの放送からリメイクへの経緯を解明し、2015年以降のリメイクドラマ作品のうち三作を選んで、日本の原作ドラマと比較分析し、ポール・ドゥ・ゲイの「文化の回路」の表象・アイデンティティ・生産・消費・規制という五つのプロセスから考察し、リメイクドラマが中国で賛否両論を呼ぶ原因を明らかにする。また、中国市場ではどのようなジャンルのドラマ作品が求められているのかを、これらの作品の分析から考察する。

### 2. 研究背景：

中国では、日本のドラマをリメイクする以前には、日本のドラマをリメイクせず、直接放送していた。中国での日本ドラマの放送は主に二段階に分けられる。第一段階は1980年代～90年代前半である。主に「おしん」をはじめとする「ホームドラマ」の放送である。第二段階は90年代後半～2000年代である。この時期は、「ホームドラマ」から「トレンドードラマ」に変わった。しかし、2000年代に入ると、日中関係が悪くなるとともに、テレビドラマの放送も少なくなかった。その代わりに、「韓流ドラマ」と「台湾アイドルドラマ」が中国市場に姿を現した。2016年中韓関係の悪化により、「韓流」輸入に制限が加えられ、いわゆる「限韓令」が敷かれた。一方、2015年11月、フジテレビとSMGピクチャーズは、戦略的パートナーシップを締結し、中国は日本ドラマをリメイクするようになってきた。

### 3. 研究方法：

本研究で比較分析を行う作品は『花より男子』（TBS、2005年）と『流星花園2018』（萌様影視、芒果娛樂、2018年）、『家売るオンナ』（日本テレビ、2016年）と『安家（筆者日本語訳：良い家を見つけよう）』（耀客メディア、企鵝影視、橙子映像、2020年）、『Mother』（日本テレビ、2010年）と『不完美的她（筆者日本語訳：完璧じゃない女）』（企鵝影視、東申影業、光芒影業、2020年）この六つの作品である。

各ドラマについて、ポール・ドゥ・ゲイの「文化の回路」をめぐる概念からアプローチし、異なる内容を比較分析する。まずは「生産」のアプローチからリメイクドラマの制作制度を探求する。『花より男子』と『流星花園2018』は、「表象」と「規制」から考察し、『花より男子』のアジア地域におけるリメイク経緯と中国の審査制度によるエピソード拡張に関する内容を中心に分析する。そして、『家売るオンナ』と『安家』は、「表象」と「アイデンティティ」について考察し、日中で異なる家族関係と不動産の内容を分析する。最後に、『Mother』と『不完美的她』は、「表象」と「消費」から検討し、女性登場人

物の比較分析と女性をめぐる社会問題に関する内容を分析する。

#### 4. 分析結果：

本研究で比較分析をおこなった三つ作品には、それぞれある程度のローカル化がなされたところがある。『流星花園2018』は中国の審査制度に従って、内容をローカル化した。リメイクドラマについても、審査制度に制限されているということが言えるであろう。そして『安家』は、原作ドラマにはない内容をあえて入れ、それをメインにしているが、それはローカル化していると言うよりも、完全に別のドラマとして構成しているとも言えるであろう。また、『不完美的她』は中国の一般的な家庭ドラマと同じように制作され、中国の既存のドラマジャンルと似たようにローカル化されたといえる。そのため、日本のドラマをリメイクする際には、内容のローカル化の質を把握・調節しなければならない。ローカル化の他に、リメイクドラマのジャンル選択も重要である。日本のドラマと比べて、中国のドラマのジャンルは少ないため、中国のどのジャンルのドラマとしてリメイクするかをよく選択する必要がある。

#### 5. 結論：

これまで中国で撮影、放送されてきたリメイクドラマは、原作ドラマと同じようには評価を得られず、賛否両論を巻き起こしてきた。その理由は、二つある。第一に、テレビドラマは審査制度に従ってリメイクするしかないという、中国の現状である。原作ドラマに含まれる、審査制度によって制限されてしまいそうな内容は、あらかじめ変更しなければならない。第二に、ドラマのローカル化の程度を把握していないことがあげられる。リメイクドラマの尺が原作ドラマより大幅に増えるため、新しいエピソードや新しい展開などを入れないといけないからである。このような新しい物語の展開は、実際に創作に近いものもある。

## 目次

序論.....	1
先行研究.....	1
研究目的および各章の内容.....	3
第1章 研究背景および研究方法.....	3
1-1 中国での日本ドラマの放送.....	3
1-2 「韓流」ブームから「限韓令」へ.....	5
1-3 台湾「アイドルドラマ」の上陸と発展.....	6
1-4 日本ドラマの放送からリメイクドラマの制作へ.....	6
1-5 研究方法および対象.....	8
第2章 『花より男子』と『流星花園 2018』の比較分析.....	9
2-1 アジア地域における『花より男子』のリメイク経緯.....	9
2-2 人物像の変更による物語の再構成.....	10
第3章 『家売るオンナ』と『安家』の比較分析.....	19
3-1 主人公の人物像と家族構成.....	19
3-2 職場ドラマから見る日中不動産の違い.....	23
第4章 『Mother』と『不完美的她』の比較分析.....	29
4-1 人物像の比較分析.....	29
4-2 女性をめぐる社会問題へ.....	34
第5章 比較分析のまとめ.....	35
5-1 リメイクドラマのローカル化.....	36
5-2 リメイクドラマのジャンル選択.....	37
結論.....	39
参考文献.....	40

## 序論

近年、中国の文化市場の発展と共に、テレビドラマの視聴率に対する需要も日々高まっている。日本貿易振興機構ジェトロ上海事務所 2015 年の調査報告<sup>1</sup>によると、2014 年 10 月末までの中国におけるケーブルテレビのユーザー数は 2.24 億世帯であり、全ての番組の中でテレビドラマの視聴比率は 31.1%であった。中国の国産ドラマだけでは、ドラマ市場のニーズに満ち足りない。そのため、海外ドラマのリメイク版の制作と放送をすることも視座に入れるようになった。

心理学者の岩男壽美子は、映画とテレビドラマの違いについて、「映画と異なり、テレビは視聴者の日常に密着しており、ドラマは社会状況を敏感に反映する」と指摘している<sup>2</sup>。そのため、テレビドラマの多くは日常生活と関連しており、視聴者の共感を得やすいと考えられている。そして、近年、中国では、海外ドラマのリメイク版に制作する状況が増えつつある。ここでいうリメイクとは他国の作品を「翻案」して輸入することであり、原作をもとに再構成し新たな作品を制作することだが、各国の文化の違いに影響され、作品の表現方法も異なる。芳賀ほか(2014)は「海外のドラマや映画を原作にしたリメイクも、一種のフォーマットの共有として、コンテンツのグローバル化の一般的な傾向として定着している。……日本の作品をリメイクする際は、ドラマという大衆文化の越境的な再生産の問題であると同時に、他文化圏の人間関係や社会制度という文化の受容と変容の過程でもある<sup>3</sup>」と論じている。このように、リメイクドラマを制作することは、文化的再生産を通じて間接的な文化交流であるとも言えるであろう。

これらを踏まえて、本研究における「リメイクドラマ」とは、日本で放送したドラマの著作権またはそのドラマの原作漫画、小説などの著作権を中国が購入し、制作したドラマ作品を指す。主に日本が制作したドラマ作品に基づいて、中国が新しく制作するドラマ作品のことである。

## 先行研究

本研究では、ポール・ドゥ・ゲイが提出した「文化の回路」（文化の回路図）という概念を借用しつつ、日本の原作ドラマと中国のリメイク版ドラマの比較分析を行う。ドゥ・ゲイの議論を援用した芳賀ほか(2014)は、日本のドラマは社会に対するメッセージを少なからず含んできたと考え、「娯楽性のなかに社会への風刺を織り交ぜ、さりげなく問題提起をするものや、家族像などの変容を反映するものも「社会性」があるドラマの一様式といえるだろう<sup>4</sup>」と指摘

<sup>1</sup> 日本貿易振興機構ジェトロ上海事務所 (2015) 「中国コンテンツ市場調査 (6 分野) 中国のテレビ番組および映像配信市場調査」, p63.

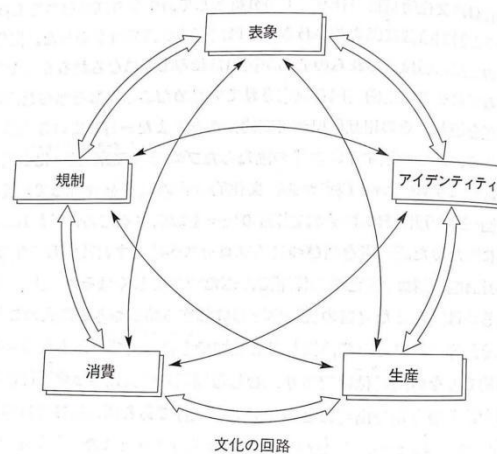
([https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/\\_Reports/02/1f66d82225addff/02tv\\_shanghai6.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/1f66d82225addff/02tv_shanghai6.pdf)) (2019 年 11 月 7 日取得)

<sup>2</sup> 岩男壽美子 (2000) 『テレビドラマのメッセージ』勁草書房, p5, p9.

<sup>3</sup> 芳賀恵・金周英・玄武岩 (2014) 「リメイク作品から見る日韓ドラマの「社会性」: 『ハケンの品格』(日)と『職場の神』(韓)を題材に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18, p70.

<sup>4</sup> 芳賀恵・金周英・玄武岩 (2014) 「リメイク作品から見る日韓ドラマの「社会性」: 『ハケンの品格』(日)と『職場の神』

している。また、芳賀ほか(2014)は、日本と韓国におけるリメイクドラマの比較分析について「文化の回路」からアプローチし、表象・アイデンティティ・生産・消費・規制という五つのプロセスから考察している。この五つの文化的プロセスは相互作用、相互影響している。ドゥ・ゲイは、ウォークマンを文化的に研究する際、「文化の回路」を以下のように論じている。文化的産物を口頭あるいは視覚的な言語を介して「表象」される。異なる表象を通じて、「アイデンティティ」が創り出される。「生産」のプロセスは文化的産物の「コード化」を指す。「消費」のプロセスとは、生産された文化的産物が消費者によって、どのように受容されるかのことである。そして、文化的産物の活用が現代社会における文化的生活の「規制」へともたらしてきた影響への探求である<sup>5</sup>。文化のテキストやその産物に関する分析は、「文化の回路」の五つのプロセスを通じてなされなければならない、とドゥ・ゲイは論じている。



文化の回路図<sup>6</sup>

本研究において、この五つのプロセスをドラマという文化テキストの分析に用いると以下のように分析できる。

まず、「表象」については、リメイクドラマにおける人物像の変更、エピソードやセリフの再構築などの変容という側面について考察できる。「アイデンティティ」は、変更された人物像とエピソードにどのような地域文化・社会文化を表しているかとかかわる。そして「生産」は、日中ドラマ制作における産業制度や方式などの違いによって、リメイク上の問題が存在することを示している。「消費」は、ドラマ自体にどのようなメッセージが含まれているのか、放送後にドラマの内容がどのように視聴者に浸透しているのかを表している。最後に、「規制」は、中国のドラマにある厳しい内容の審査制度と繋げて考えることができる。日本のドラマをリメイクする時、様々な内容を修正、改変しなければならない。本研究では、以上の五つのプロセスからドラマの分析を行う。

(韓)を題材に』『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18, p72.

<sup>5</sup> ポール・ドゥ・ゲイ (著) 暮沢剛巳 (訳) (2000) 『実践カルチュラル・スタディーズ——ソニー・ウォークマンの戦略』大修館書店, p7-11.

<sup>6</sup> ポール・ドゥ・ゲイ (著) 暮沢剛巳 (訳) (2000) 『実践カルチュラル・スタディーズ——ソニー・ウォークマンの戦略』大修館書店, p8.

現時点では、日本と中国のリメイクドラマに関する研究は少ないため、芳賀ほか(2014)が行った日本と韓国のリメイクドラマに関する研究を参考とし、「文化の回路」のアプローチから日中のテレビドラマ比較分析の研究を行う。

## 研究目的および各章の内容

フジテレビと SMG ピクチャーズは 2015 年 11 月、戦略的パートナーシップを締結して以来、2 作の日本ドラマの中国版を日中共同制作し、中国で放送・配信してきた。その後、中国では日本の IP（知的財産権）を購入するという形で日本ドラマがリメイクされ、中国市場に多く出回ってきた。

以上の状況を踏まえて本研究は、まず、中国における日本ドラマの放送からリメイクへの経緯を解明する。次に、2015 年以降のリメイクドラマ作品のうち 3 作を選び、「文化の回路」の五つのプロセスから考察し、日本の原作ドラマと比較分析する。そして、分析結果からリメイクドラマが中国で賛否両論を呼ぶ原因を明らかにする。また、中国市場ではどのようなジャンルのドラマ作品が求められているのかを、これらの作品の分析から考察する。日本文化と「韓流」がアジア全体に影響を与えたように、中国ドラマも影響力を持って中国文化を輸出できるかについても検討したい。

本研究の構成は次の通りである。第 1 章では中国のテレビドラマの発展の歴史を踏まえて、海外（地域）ドラマが中国で放送されるまでの経緯を整理する。時代背景や国際関係によって、海外（地域）ドラマの放送がどのような影響を与えるかについて述べる。また、中国のドラマ制作について、「文化の回路」中の「生産」という視座から考察する。

第 2 章、第 3 章、第 4 章では具体的に 6 作品のドラマの比較分析について書く。それぞれのドラマを 3 つの章に分けて、「文化の回路」からアプローチし、異なる内容を比較分析する。第 2 章では、『花より男子』と『流星花園 2018』を扱い、「表象」と「規制」から考察し、『花より男子』のアジア地域におけるリメイク経緯と中国の審査制度によるエピソード拡張に関する内容を中心に分析する。第 3 章では、『家売るオンナ』と『安家』を扱い、「表象」と「アイデンティティ」から考察し、日中の家族関係と不動産の内容の差異を分析する。第 4 章では、『Mother』と『不完美的她』を扱い、「表象」と「消費」から検討し、女性登場人物の比較分析と女性をめぐる社会問題に関する内容を分析する。

第 5 章では以上の比較分析の内容をまとめて、それぞれ「文化の回路」とどのような関係性があるのかを書く。終章では比較分析の結論と残された課題について述べたい。

## 第 1 章 研究背景および研究方法

### 1-1 中国での日本ドラマの放送

中国のテレビチャンネルは、世界でもっとも多いと言われている。中国の一般的な家庭では 100 前後のチャンネルが視聴できる。中国のテレビ局は政府の



管轄下にあり、テレビメディアは国家新聞出版広電総局<sup>7</sup>（以下は「広電総局」と略す）によって全国レベルで統括管理されている。中国のテレビチャンネルは、大きく二つに分けられる。それは、中央テレビ局（中央電視台、CCTV）と地方テレビ局である。その中で、中央テレビ局は広電総局が直接管理するほか、省、市、県と区分された中国の各行政単位でのテレビ局もあり、別々に管理・運営されている。中央テレビ局においては、地方テレビ局とは異なる番組が放送されている。

中国では視聴できるチャンネルが多いため、放送される番組の数も多く、それは番組の多様性にも反映されている。テレビドラマもその一つであり、中国本土のテレビ番組以外に、海外のテレビ番組も視聴できる。ここでは、海外ドラマが中国国内のテレビチャンネルで視聴できるようになった経緯を簡単に紹介する。まずは日本のドラマ放送について、中国での日本ドラマの放送は、主に二段階に分けられる。第一段階は1980年代～90年代前半、第二段階は90年代後半～2000年代である。

1978年、中国と日本が「中日和平友好条約」（日本では「日中平和友好条約」という）を締結し、中日間の文化交流が始まった。中国では、80年代から90年代前半にかけ、日本で制作されたテレビドラマ等の多数の映像作品が放送され、大ブームとなった。1981年、上海テレビ局で中国語吹き替えの日本ドラマ『姿三四郎』が放送されたが、それは中国のテレビ局で初めて放送された日本のドラマであった。『姿三四郎』が大ヒットとなった後、中央テレビ局は1983年に『燃えろアタック』を放送した。続いて1984年には『赤い疑惑』を放送し、1985年には『おしん』が放送されたが、それらのドラマはすべて高い視聴率を記録した。この時代のドラマは主に家庭に関する「ホームドラマ」である。「ホームドラマ」は、庶民の家庭を舞台とし家族間の葛藤もしくは、家庭内問題などをユーモアとパトスを混ぜて描写したドラマをいう<sup>8</sup>。以上が、中国における日本ドラマ放送の第一段階である。

そして、90年代前後になると、バブル経済で消費が過熱していった日本では従来の「ホームドラマ」が姿を消し「トレンドードラマ」という新しいジャンルがドラマの主流となった。中国では、大衆文化が次第に発展してくる1992年ごろから、日本の「トレンドードラマ」が各大都市で急速にその人気を高めた。「トレンドードラマ」は、東京を主な舞台とした若者の恋愛、仕事、人間関係、生きざまを描いた日本の民放制作のドラマを指す<sup>9</sup>。「トレンドードラマ<sup>10</sup>」の人気は日本を超え、東アジアでも話題を呼んだ。中国で放送された『東京ラブストーリー』、『ひとつ屋根の下』は人気を集めたが、中国大陸での日本ドラマ放送のピークは1993年で、以後は次第に減少していった。ここまでの中国における日本ドラマ放送の第二段階である。

以上の二段階を踏まえると、中国における日本のドラマの放送の経緯が分かりやすく捉えられる。下の図から分かるように、中国と日本の平和友好条約が

<sup>7</sup> 国家新聞出版広電総局（こっかしんぶんしゅっぱんこうでんそうきょく）：略称「広電総局」。中華人民共和国国务院の直属機構。中国全土のテレビ・ラジオ・新聞・出版社を管轄する機関。

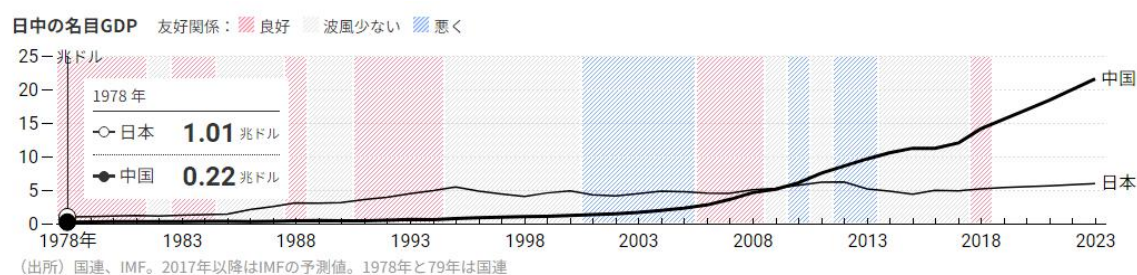
<sup>8</sup> 崔寶允（2011）「「ポスト・トレンドードラマ」としての韓流ドラマ」『外国文学』60, p4.

<sup>9</sup> 岩渕功一（2003）『グローバル・プリズム（アジアドリームとしての日本のテレビドラマ）』平凡社, p15.

<sup>10</sup> インターネット上の辞書「日本語俗語辞書」は、「トレンドードラマとは英語の“trendy（流行を追う）”と“drama（ドラマ・劇）”から成る和製英語で、1990年前後の恋愛ドラマに対して使われた。月9の人気とともに普及した言葉だが、2000年に入り、当初トレンドとされていたものが風化したかの如く使われなくなった。」と定義している。

（<http://zokugo-dict.com/20to/trendy-drama.htm>）（2019年11月10日取得）

締結されてから、日中両国の友好関係や GDP の変化によって文化交流の方式も変わりつつあった。下に示す日中関係変化図によれば、80年代から90年代前半、日中関係は良好であり、文化交流が盛んにおこなわれていた。この状況は、中国における日本ドラマの放送が増加したことの大きな理由の一つとも見ることができる。また、2008年以前、日本のGDPは中国より高かったが、その後中国のGDPが日本を上回っていった。2013年以降、日中関係は「悪い」から「波風が少ない」に変遷し、2018年に入ると、再び「良好」となった。中国の市場は、日本ドラマの脚本を購入したり、ドラマを制作することができる資本をもってきたといえるであろう。



日中関係変化図<sup>11</sup>

## 1-2 「韓流」ブームから「限韓令」へ

崔(2010)は「90年代中後期から『新興勢力』としての韓国ドラマが中国でその影響力を拡大し続け、中国の文化市場に激しく押し寄せた『韓流』を形成した。90年代後半から中国大陸での日本のテレビドラマの放送数は次第に減少し、中国の主流のテレビチャンネルから姿を消して行った<sup>12</sup>」と論じている。

その代わりに、韓国ドラマが中国のテレビ界に参入した。北京テレビ研究員の高(2009)は、韓国ドラマが中国で人気を博した三つの理由を語った。一つ目は、韓国ドラマで示されている慎み深さ、自己放棄、美德などの韓国の伝統的な価値観が中国の価値観と似ているからである。二つ目は、韓国ドラマに出てくる芸能人が中国人の審美に合っている点である。そして、三つ目は、韓国ドラマはロマンティックなラブストーリーがメインで、女性視聴者の理想的な恋愛観に訴えるものである<sup>13</sup>。

ところが2016年、韓国がTHAAD(終末高高度防衛ミサイル)の配備を決定すると、中国側は反対の立場を表明し、「韓流」輸入に制限を加えてきた。具体的には、中国での韓流ドラマの放送中止や韓国芸能人の公演の制限などである。それまで韓流ブームが長く続いていた中国では、再び日本をメインとする韓国以外の他国の資源発掘へと移行した。

<sup>11</sup> 佐藤賢・藤川衛・久能弘嗣・加藤皓也・鈴木輝良・矢後衛(2018)「友好・対立・協調…揺れた日中の40年」『日本経済新聞』(2018.10.23公開) (<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/cj-postwar-history/>) (2019年11月7日取得)

<sup>12</sup> 崔保国(2010)「中国における日本のテレビドラマ」第19回 JAMCO オンライン国際シンポジウム。 (<http://www.jamco.or.jp/jp/symposium/19/6/>) (2019年11月15日取得)

<sup>13</sup> 高菲(2009)「中国のテレビ業界の現状と傾向」『ACCU ニュース』No. 371, p7.

### 1-3 台湾「アイドルドラマ」の上陸と発展

「韓流ドラマ」とほぼ同時期に中国市場に参入するのは台湾「偶像劇」である。「偶像劇」とは「アイドルドラマ」とのことである。ドラマの主演を務めるのが俳優ではなく、アイドルやモデルであるのが「アイドルドラマ」の特徴である。2000年代以前の台湾ドラマと言えば、ホームドラマやメロドラマなどのジャンルがメインである。これらのドラマも中国大陆で放送された。その後、日本のトレンドドラマの影響で、台湾も若い視聴者をターゲットとしたドラマを作るようになった。

2000年、中華電視（台湾のテレビチャンネル）がモデルや新人俳優を多数起用して学園ドラマ『明星★学園』を制作したが、これが台湾「アイドルドラマ」の始まりと言われている。そして、「アイドルドラマ」の名をアジア地域に知らしめたのが、2001年の『流星花園』である。2002年2月、中国大陆でも放送されたが、その直後の3月には中国の広電総局が「未成年者に悪い影響を与える」として、放送禁止とした。

しかし、「アイドルドラマ」からの影響は止められず、中国大陆における台湾ドラマの放送トレンドは「ホームドラマ」から「アイドルドラマ」へと改変された。『流星花園』の成功をきっかけに、台湾では日本の漫画をベースにした「アイドルドラマ」が定番となった。2010年まで、中国大陆で放送された台湾ドラマは主に「アイドルドラマ」であったが、その後、中国ドラマの発展かつ台湾ドラマジャンルの転換によって、「アイドルドラマ」の放送が少なくなった。また、中国制ドラマの台湾輸入も始まった。山田賢一(2013)によると、「言語の翻訳が不要で、番組の販売価格も安い中国ドラマは、短期間で台湾のテレビドラマ市場を席卷しつつある<sup>14</sup>」との理由が述べられている。

### 1-4 日本ドラマの放送からリメイクドラマの制作へ

90年代後半から、日本のドラマが中国のテレビで放送されることが多くなってきた。2000年代に入ると、インターネットの普及に連れて、ドラマの放送はテレビ以外、インターネット動画サイドでのドラマ配信も行われるようになった。海外ドラマは、中国では主にインターネット上の放送となった。一方で、2010年までは違法なコンテンツが溢れていた。例えば、日本のドラマが中国のインターネットサイトに個人的にアップロードされ、日本語能力がある人によって無償で中国語字幕が加えられ、日本語が分からない人でも簡単に見られるようにされたものなどであり、許可や放映権も得られていないため、違法にアップロードされたものである。

近年、中国の動画サイトは日本ドラマの放映権を購入し、有料配信をしている。例えば優酷(ヨウク)やIQIYI(アイチーイー)などの動画共有サイトが人々に愛用されてきた。その理由について、大藤(2020)は「中国では様々な情報規制などもあるため、Netflixをはじめ、アメリカ発のサービスはほとんど使うことができず、その結果、愛奇芸(iQIYI:アイチーイー、中国版Netflix

<sup>14</sup> 山田賢一(2013)「台湾のテレビドラマ制作最新事情～“空洞化”の中で中国との関係をどう築くか～」『放送と調査』63(9),p62.

と呼ばれている)やテンセントビデオなど独自に発達した配信サービスが人気を集めてい<sup>15)</sup>」ると考えられると指摘している。

それらは動画共有サイトであると同時に、日本のアニメ作品、映画、ドラマなどが海賊版などとして違法にアップロードされるのを防止するため、独自に字幕版や吹替版の正規配信をおこなっているサイトでもある。なお、これらの一部については、視聴するにはVIP 有料会員への加入が必要なコンテンツもあり、インターネット上の再生回数が10万回以上のドラマもある。許可や放送権利のない、違法にアップロードされた日本ドラマを視聴することは著作権侵害であるが、このような動画サイトは版權を購入してからインターネット放送をおこなっているため、合法的に日本ドラマを楽しむことができるのである。

中国の若者ドラマの視聴方法を違法コンテンツから有料動画サイトへと変更した。その原因について、長谷川(2018)は「中国経済の成長発展と共に育った若者の多くは、お金にも時間にも余裕を持ち始め、趣味のためにお金を使うことをいとわない。自分が見たいアニメやドラマを探し求めて、テレビよりもバラエティーに富んだ動画配信サービスを選んでいる<sup>16)</sup>」と述べている。

動画サイトでの有料配信には、日本ドラマの版權を購入が必要とされる。その一方で、日本ドラマのIP(知的財産権)を購入し、日本のドラマをリメイクしてからテレビで放送するという形がとられることも多くなった。フジテレビとSMGピクチャーズは、2015年11月に戦略的パートナーシップを締結し、ドラマ『プロポーズ大作戦』(2007年)、『デート～恋とはどんなものかしら～』(2015年)の中国版を共同制作し、中国で放送・配信してきた<sup>17)</sup>。もちろん、中国はこれ以前もリメイクドラマを制作してきたが、日本の権利者より制作権を得られないまま制作されたものが多くを占めていた。

中国と日本のドラマ制作における産業制度や制作方式などに「文化の回路」の「生産」というプロセスを結びつける。例えば、日本のドラマは週1回の放送スピードで、3ヵ月から1年間のインターバルを経てから次のシリーズが制作されているものが多く、切れ目に特番を挟み、1シーズンは9～11回程度が通常である。また、日本のドラマは主に撮影しながら、放送するという形である。撮影を続けながら週に一度放送するのが常だ。そのため、視聴率により、ストーリーの内容や方向が変わる可能性もある。中国のドラマは日本のドラマと違って、すべての内容が撮り終えた後、放送するという制作方式である。そのため、シーズンという概念がない。そして、中国のドラマの尺は日本より多く、一つのドラマの尺は30～60話のものが多い。その理由は、中国のドラマの放送制度にある。中国のドラマは1日に1～2話の放送が多いため、2週間から1ヶ月の放送ができるように、尺が長いわけだ。

ドラマを制作する上で様々な違いがあるため、リメイクドラマが制作される時は必ず問題が発生する。中国がドラマをリメイクする時には、放送枠内を満

<sup>15)</sup> 大藤ヨシヲ(2020)「意外と知らない動画配信市場の今とは?動画配信先進国、中国のトレンドもご紹介!」

(<https://data.wingarc.com/video-streaming-services-23534>) (2020年11月9日取得)

<sup>16)</sup> 長谷川朋子(2018)「中国の動画配信、若者は金を払ってネット動画を見る——違法コンテンツ大国は過去の話」日経トレンディネット(<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00160/060600034/?P=2>) (2020年11月9日取得)

<sup>17)</sup> フジテレビジョン(2018)「ドラマ2作品を中国向けに共同制作へ映画の中国配給も——フジテレビとSMGピクチャーズ(中国)が戦略的パートナーシップを強化」フジテレビジョン([https://www.fujitv.co.jp/company/news/181017\\_01.html](https://www.fujitv.co.jp/company/news/181017_01.html)) (2019年11月20日取得)

たす量にするため、元々は9～11話ほどのドラマの内容を40～50話ほどまで拡張しなければならない。内容の増加にともない、キャラクターイメージやエピソードの拡張などもなされなければならない。この時点で、単純に日本のドラマをそのまま同じ内容で撮影制作するのではないため、いわば、文化的な再生産が必要不可欠となっている。

また、中国のドラマ市場は、時代劇やラブロマンスを含む宮廷ドラマが多くを占め、人気を博している。ところが現代ドラマにおいては、恋愛ドラマの放送が圧倒的に多く、視聴者からも愛されている。実際、中国のドラマ市場においては、ドラマのジャンル数は日本よりも少ないのである。そのため、幅広いジャンルのドラマがある日本から、ドラマの版權を購入し、その多くがリメイクされるわけである。

近年、作品のおもしろさを求める声が日々高まり、中国では日本のIP（知的財産権）購入がピークを迎えている。近年、中国では10本以上の日本ドラマがリメイクされたが、全体として日本のオリジナル版には及ばないと評価された。それにも関わらず、日本ドラマをリメイクする勢いは暫く衰えそうにない。

## 1-5 研究方法および対象

本研究では、フジテレビとSMGピクチャーズが2015年11月に戦略的パートナーシップを締結して以来、中国が日本の版權を購入した作品の中から、三つの作品を選んで、日本の原作ドラマと比較分析する。2015年11月から、現時点(2020年12月)まで、中国でリメイクされた日本のドラマ作品は以下のグラフのように示している。2020年12月まで、中国のテレビ局は合計11作のリメイクドラマを制作した。

原作タイトル		リメイク版タイトル(日本語訳)	
花より男子	2005年	流星花園(流星花園 2018)	2018年
花より男子2(リターンズ)	2007年		
のだめカンタービレ	2006年	蝸牛與黃鸝鳥(蝸牛とコウライウグイス)	2020年
プロポーズ大作戦	2007年	求婚大作戦(プロポーズ大作戦)	2016年
深夜食堂	2009年	深夜食堂	2017年
Mother	2010年	不完美的她(完璧じゃない女)	2019年
鍵のかかった部屋	2012年	上鎖的房間(鍵のかかった部屋)	2019年
問題のあるレストラン	2015年	問題餐廳(問題レストラン)	2016年
デート～恋とはどんなものかしら～	2015年	約會戀愛究竟是什麼(デート、恋とはどんなものかしら)	2017年
家売るオンナ	2016年	安家(良い家を見つけよう)	2020年
地味にスゴイ!校閲ガール・河野悦子	2016年	不負時光(時間を無駄にしない)	2019年

東京女子図鑑	2016年	北京女子図鑑(北京女子図鑑) 上海女子図鑑(上海女子図鑑)	2018年
--------	-------	----------------------------------	-------

2015年11月～今まで(2020年12月)中国でリメイクされた日本のドラマ(筆者まとめ)

2015年11月以降、中国が権利を獲得した上でリメイクした日本の作品は、大きく二つの状況に分類することができる。一つは、日本の小説や漫画を原作にしたもの、あるいは完全オリジナルとして制作されたものである。もう一つの分類は、中国でだけリメイクされたものと複数の国でリメイクされたものである。この二つの分類から、合計4パターンのリメイク作品に分けることができるが、それは小説や漫画を原作にしたドラマで複数の国でリメイクされた作品、小説や漫画を原作にしたドラマで中国においてのみリメイクされた作品、完全オリジナルドラマで複数の国でリメイクされた作品、完全オリジナルドラマで中国においてのみリメイクされた作品である。

本研究で比較分析を行う作品は『花より男子』(TBS、2005年)と『流星花園2018』(萌様影視、芒果娛樂、2018年)、『家売るオンナ』(日本テレビ、2016年)と『安家(筆者日本語訳:良い家を見つけよう)』(耀客メディア、企鵝影視、橙子映像、2020年)、『Mother』(日本テレビ、2010年)と『不完美的她(筆者日本語訳:完璧じゃない女)』(企鵝影視、東申影業、光芒影業、2020年)の六つの作品である。先の分類から見ると、『花より男子』は小説や漫画を原作にしたドラマで複数の国でリメイクされた作品であり、『家売るオンナ』は完全オリジナルドラマで中国においてのみリメイクされた作品である。そして、『Mother』は完全オリジナルドラマで、複数の国でリメイクされた作品である。すなわち、今回は小説や漫画を原作にしたドラマで中国においてのみリメイクされた作品は比較分析をおこなわない。このパターンに当てはまる作品は、『鍵のかかった部屋』と『地味にスゴイ!校閲ガール・河野悦子』であるが、『鍵のかかった部屋』はミステリードラマであるため、本研究では比較分析の対象としない。また、『地味にスゴイ!校閲ガール・河野悦子』は職場ドラマであり、比較分析の内容が『家売るオンナ』と重なる部分があるため、比較分析を行わない。

以上の理由により、比較分析の作品を上記の六つの作品とした。それらをそれぞれ3章に分けて「文化の回路」からアプローチし、各作品を異なる観点から比較分析する。

## 第2章 『花より男子』と『流星花園2018』の比較分析

### 2-1 アジア地域における『花より男子』のリメイク経緯

『花より男子』は漫画家神尾葉子が1992年から2004年まで『マーガレット』に連載した少女漫画作品である。『花より男子』は名門私立高校英徳学園に入学した唯一の「庶民」牧野つくしと学校を牛耳っているF4(Flower4)の四人とのストーリーである。そんな中、F4のリーダー道明寺はつくしのことを好きになってしまう。やがて、二人の思いは通じ合っていくが、道明寺の母をはじめ、様々な事情が彼らの恋路を阻むようになった。実写映画は1995年8月19日に公開された。最初にドラマ化されたのは日本ではなく、台湾だった。台湾

で2001年に、『流星花園Ⅰ』（全28話）のドラマが制作放送された。そして、その続編『流星花園Ⅱ』（全26話）は2002年に放送され、台湾地域だけではなく、世界的にヒットとなり、世界13カ国に輸出された。

そして、日本に逆輸入され、2005年日本ドラマ『花より男子』（全9話、以下『花男』と略す）の誕生に深く影響を与えたと考えられる。2007年、続編を望む視聴者の要望に応える形で制作された『花より男子2（リターンズ）』（全11話）が放送された。両作品とも、日本で高い視聴率を記録した。アジアでも人気を集めた。

2009年、韓国版のテレビドラマ『コッポダナムジャ』（全25話）が韓国で放送され、日本では『花より男子～Boys Over Flowers』の邦題で放送された。同年、中国大陸でも『一起来看流星雨』（筆者訳：『一緒に流星雨を見よう』、全36話）というタイトルとして、この作品をリメイクした。翌年、続編『一起又看流星雨』（筆者訳：『また一緒に流星雨を見よう』、全35話）しかし、これは漫画『花より男子』の権利者よりドラマ化権利を取得せず、制作されたものである。

2018年、中国大陸では再び『花男』がリメイクされた。タイトルは台湾版と同じく『流星花園』となった。『流星花園2018』は、台湾版と同じタイトルをつけたこともあり、日本ドラマのリメイクというよりは、台湾版の『流星花園』をリメイクしたイメージが強いであろう。『流星花園』では、「F4」を演じる四人はドラマの役名のまま「F4」として活動を開始し、アジアのトップスターに登りつめた。また、『花男』では、アイドルグループ「嵐」のメンバー松本潤がメインキャストを務め、放送後、アジアで注目を集めた。『流星花園2018』は、『流星花園』と同じく、「F4」を演じた四人はドラマの主題歌を歌った。道明寺を演じたディラン・ワンは、中国のアイドル公開オーディション番組で優勝した。どのバージョンでも、「アイドル」と関わっている。このように、俳優ではなく、アイドルがメインキャストを務めたのがこれらのドラマの特徴である。

その他に、タイで実写ドラマ化されることが決定した。2020年11月から撮影が開始し、2021年夏にタイでテレビ放送される。『花男』はアジア地域におけるリメイク行動は今後も続いている。原作漫画からもはや30年経つ作品だが、日本だけではなく、世界中で受容されている。しかし、中国ではドラマの審査制度があるため、放送できない内容もある。リメイク版を制作する時、それらの内容を審査制度により、変更されることも多い。このような中国の審査制度は、ドゥ・ゲイが指摘する「文化の回路」の「規制」から考察できる。

『流星花園2018』（以下『流星2018』と略す）は原作漫画『花より男子』のドラマ化権利を購入した上で制作された。日本では『流星2018』を邦題としてネットフリックスにおいて日本語字幕付きで配信されている。中国では全50話の配信だが、ネットフリックスでは一部内容をカットし、全49話の配信となった。比較分析の対象は日本TBSテレビが発売した『花男』DVD-BOXとネットフリックスで配信した『流星2018』である。

## 2-2 人物像の変更による物語の再構成

『流星 2018』は『花男』をリメイクしたと言うよりも、台湾版の『流星花園』をリメイクしたというイメージが強いかもしれない。両作の監督は同じであるため、『流星 2018』では 2001 年で放送した『流星花園』と似ている設定がある。例えば、『流星 2018』では登場人物の名前が中国語風にアレンジしている。主人公牧野つくしは「董杉菜（ドン・シャンツァイ）」と変更され、台湾で出版された翻訳漫画では「牧野杉菜」と訳されている。そして、台湾が撮影したドラマ『流星花園』では「董杉菜」にアレンジされている。また、『流星 2018』では、同じく「董杉菜」が使われている。そして、F4 のリーダー道明寺司の苗字は三文字で、中国では三文字の苗字は少ないため、フルネームを三文字の「道明寺（ダオミン・スー）」にし、「道明」を苗字、「寺」を名前に変更した。そして、花沢類は元々三文字で、その上すべて漢字なので、そのまま「花沢類（ホアズー・レイ）」にした。そして、西門総二郎という名前では、「総二郎」を「彦」に変更し、「西門彦（シーメン・ヤン）」にアレンジした。美作あきは「馮美作（フォン・メイゾオ）」と変更した。中国では「美」という苗字がないため、「美作」を名前にし、「馮」という苗字を前につけるようになった。

花より男子	流星花園 2018
牧野つくし 英徳学園 高校 2 年生 入学理由：親たちの見栄えで、私立高校英徳学園に入学することをすすめられ、学校の説明会に参加し、入学した。	董杉菜(トウ・シャンツァイ) ミンダー大学 大学 1 年生 入学理由：「栄養学を学びたい」という夢を実現するため、自ら私立大学ミンダー大学に入学した。
道明寺司 英徳学園 高校 3 年生 道明寺財閥の御曹司。F4 のリーダーで、この学園の独裁者。	道明寺（ダオミン・スー） ミンダー大学 大学 4 年生 F4 のリーダー。金融の才能に恵まれて、18 歳にして株式でお金を稼いだ。
花沢類 英徳学園 高校 3 年生 大商社の箱入り息子。	花澤類（ホアズー・レイ） ミンダー大学 大学 4 年生 音楽の天才。
西門総二郎 英徳学園 高校 3 年生 茶道の家元の跡取り。	西門彦（シーメン・ヤン） ミンダー大学 大学 4 年生 茶道の名門。
美作あきら 英徳学園 高校 3 年生 闊社会のドンの跡取り。	馮美作（フォン・メイゾオ） ミンダー大学 大学 4 年生 文学とアートに造詣が深い。

※両作人物名前の比較表（筆者まとめ）

名前だけではなく、『流星 2018』の人物像も『花男』と比べて明らかに違いがある。まずは主人公の入学理由と家庭環境の違い。原作漫画では、つくしが母の見栄えにより、私立高校英徳学園に入学することをすすめられ、無理やりに英徳学園に入学したという流れであった。ドラマ『花男』においては、つくしの入学理由を少し変更した。つくしは母と一緒に英徳学園の説明会に参加



し、そこで卒業生の藤堂静のスピーチを聞いて、「自分らしく生きて、そうすれば、悔いのない学園生活を送ることができます」という言葉にひかれて入学を決めた(図 花男-1)。しかし、入学後の生活は自分の想像と全く違うものだった。ドラマの冒頭は、二年生になったつくしの心の声で始まった。

つくし「ここは日本のセレブが通う英徳学園。幼稚舎から大学までエスカレーター式の超がつく名門私立高校。」

……

つくし「外から見ているうちは誰もがあこがれる学園だけど。」

……

つくし「高校から入学してきた庶民の私にはついていけないことばかりで…」

(TBS, 『花より男子』 DVD-BOX, 第1話, 00:01:10~00:02:18)



図 花男-1 (第1話, 00:16:45)

一般家庭のつくしと英徳学園の富裕層の生徒との格差が見られる(図 花男-2)。この点は、つくしが学園に馴染めない原因となった。英徳学園に馴染まないつくしは学校をやめたいが、自分の家族はつくしが英徳学園に通っていることを心の底から喜んでいるため、学校をやめたいことを言い出せなかった。



図 花男-2 (第1話, 00:01:47)

つくし一家は一般企業の社員として勤めている父、主婦の母と中学校に通う弟の四大家族である。高額な学費を払うため、一般家庭のつくし一家は貧しい生活を送り始めた(図 花男-2)。ドラマではつくし一家と一緒に晩ご飯を食べるシーンで、食卓には「鳥かわ揚げ」が晩ご飯として出された(図 花男-3)。

つくしも毎日団子屋でアルバイトをして、家計を助ける。



図 花男-3 (第1話, 00 : 35 : 58)



図 花男-4 (第1話, 00 : 35 : 34)

それに対して、『流星 2018』では、主人公シャンツアイの入学理由は自己意識が強いためだと描かれている。シャンツアイは「栄養学を学んで、母さんのケータリングの仕事を手伝う」という夢を実現するため、自ら私立大学ミンダー大学に入学した (図 流星-1)。

シャンツアイ・ナレーション「我が家の食卓の一番のごちそうは、料理自慢の母さんが腕を振るう酢豚だ。私の記憶に、家族みんな揃って、母さんの手料理を食べるのが一番の幸せだ。」

……

シャンツアイ・ナレーション「私の夢は栄養学を学んで、母さんのケータリングの仕事を手伝うこと。」

……

シャンツアイ・ナレーション「こうして私はミンダー大学で栄養学を学ぶことになった。」

シャンツアイ「母さん、これがうわさのミンダー大学なの？」

シャンツアイ母「そうだよ。一流の大学なんだから、一生懸命勉強して、未来を切り開くのよ。頑張ってね。」

中国語セリフ原文：

杉菜・旁白「这道糖醋排骨是董家私厨的招牌菜。从我有记忆以来，一家人围桌吃妈妈烧的家常菜就是天底下最幸福的事。」

……

杉菜・旁白「所以我立志要考取明德学院营养系。我想将妈妈的家厨事业做强做大。」

……

杉菜・旁白「而我……也终于被梦想中的明德学院录取，如愿成为一名营养学系的新生。」

杉菜「妈，这就是传说中的明德学院吗？」

杉菜妈妈「对呀，这是最好的一所精英学校。所以杉菜你要加油哦。你美好的人生就从这里开始了。来，加油。」

(ネットフリックス、『流星花園 2018』日本語字幕付き全話配信, 第1話, 00 : 03 : 12~00 : 05 : 23, 筆者が日本語字幕内容を修正した。)

大学では、シャンツアイと他の生徒とほとんど違いはない。リメイク版では、学校中の格差をなくした。それ故、主人公が学校に馴染めないことはほとんどない。



図 流星-1 (第1話, 00:05:40)



図 流星-2 (第1話, 00:03:30)

シャンツアイ一家は会社員の父とケータリング業者をしている母の三人家族である(図 流星-2)。『花男』のつくし一家と比べると裕福な生活を送っている。シャンツアイは大学入試を終えてから、友達と一緒に茶房でアルバイトをした。また、『花男』には、つくしが学園中唯一の「庶民」であるため、入学後は学園内の友達はいない。2年生になってから、転校生の桜子と友達になった。これはつくしが学園内で初めての友達である。『流星2018』には、シャンツアイと幼なじみの男の子と一緒に入学し、同じ学部に所属したため、最初から大学に友達がいるという状態である。こちらも、日本版と違うところである。

また、日中両作品に登場し、主人公と深く関りがあるF4の四人にも、人物像の違いがある。『花男』では、F4は学園を牛耳っている3年生の四人組である(図 花男-5)。『花男』の第一話では、つくしが転校生の桜子に学園とF4のことを紹介した。

桜子「F4？」

つくし「この学園を牛耳っている3年生の四人組。FLOWER4、略してF4。」

……

桜子「どうしてみんな、そのF4の言いなりなんですか？」

つくし「四人とも大金持ちの御曹司なの」

桜子「この学園はみんなそうじゃないんですか？」

つくし「ケタが違うの。学園は彼らの親からばく大な寄付金をもらってる。だから先生たちでさえ、何も言えない。彼らは学園内ですべての自由を約束されてる。」

……

つくし「F4のメンバーは美作あきら、10歳以上年上の人妻としかつきあわないマダムキラ一。親は闇社会の大ボスってウワサ。西門総二郎、茶道の家元の跡取り、とんでもない女たらしの遊び人。花沢類、大商社の箱入り息子。クールで無口で、メンバー1謎めいた存在。それと、道明寺司。世界的有名な道明寺財閥の御曹司。F4のリーダーで、この学園の独裁者。」

(TBS、『花より男子』DVD-BOX, 第1話, 00:04:00~00:06:28)

F4 四人の人物像は二年生になった主人公の一人称的な視点で紹介され、中には不満などの感情も入っていることが見られる。特に、道明寺は「学園の独裁者」と呼ばれている。道明寺のやり放題の行為につくしは不満があることが分かる。



図 花男-5 (第1話, 00:06:30)



図 流星-3 (第1話, 00:13:44)

一方、『流星 2018』では、F4 は大学 4 年生の四人組である (図 流星-3)。新入生のシャンツァイは初対面の時、F4 のことをよく知らなかった。そして、大学の先輩から F4 のことを聞いた。

グオ・ツァイジェ 「あの人気者が 4 年生の F4 よ。」

… …

シャンツァイ 「先輩、なぜ F4 はあんなに人気があるんですか？」

グオ・ツァイジェ 「彼らはミンダー大学の四年生だ。四人の平均身長は 185 センチ、ハンサムで頭もよくて周囲をひきつけるの。そのうえ、それぞれの専攻での成績も秀でてる。ホアズーは音楽、シーメン、メイズオ、ダオミン・スーは経営学が専攻よ。四人とも注目される存在だ。奨学金も難なく得られるし、少なくとも 3 カ国語を話せる。頭がいいだけでなく、趣味もいい。遊び人に見えるけど、女性にも敬意を持って接する。四人は幼なじみで、固い友情で結ばれ、誰も彼らの仲間には入れない。そのゆえに F4 はミステリアスな存在で、大学中の女の子にモテるのよ。……」

中国語セリフ原文：

郭采洁 「F4 确实是很受欢迎的学长哦。」

……

杉菜 「采洁学姐，为什么说 F4 是很受欢迎的学长呢？」

郭采洁 「F4 是四个明德学院四年级的学生，身高平均一米八五，外表英俊出色，性格乐观开朗。关键是在学业上都各自有优异不凡的强项。音乐系的花泽类，工管系的西门、美作和道明寺。这四个男生每个人都让人忍不住注目。不但能申请到优等的奖学金，而且至少都会三国语言。他们不只会读书，还很有生活品味。虽然看起来很花心，但是对女孩子都很尊重。他们四个人的感情十分紧密，听说是多年的发小。很难有人可以打进他们的圈子。也因为这样，F4 在明德学院充满了神秘的色彩。女生对他们趋之若鹜。……」

(ネットフリックス、『流星花園 2018』日本語字幕付き全話配信, 第 1 話, 00:13:04~00:14:42, 筆者が日本語字幕内容を修正した。)

F4 は大学でブリッジ・クラブ (トランプゲームをするクラブ) を設立した。クラブを設立してから、彼らを負かした人はいないため、大学の誇りでもある。F4 のリーダーダオミン・スーは学校の経営学を専攻している四年生で、金融の才能に恵まれ、18 歳にして株式でお金を稼いだ話は大学の伝説になった。F4 の他の三人も日本版と異なる設定だ。ホアズー・レイは音楽の天才で、シーメン・ヤンの一家は茶道の名門で、そしてフォン・メイズオは文学とアートに造詣が深いと紹介された。

リメイク版では、F4 は成績がよく、教養深く、運動神経も抜群、大学で先

生と生徒たちから尊敬されている存在である。しかし、『花男』では授業をサボり、制服もほとんど着ない、学園内の自由を約束されている存在である。彼らに刃向かった者は「赤札」を貼られて、全校生徒からのいじめにあう。耐えられない人は最後には退学となる。

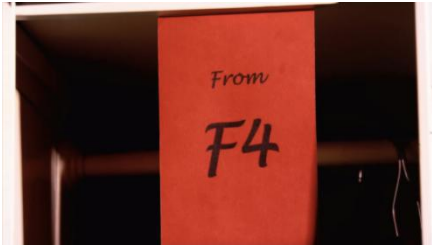


図 花男-6 (第1話, 00 : 06 : 30)



図 花男-7 (第1話, 00 : 24 : 25)

「赤札」とはF4からの宣戦布告のしるしである(図 花男-6)。小さい頃からいつもいじめっ子から友達を守ってきた正義感があるつくしは、F4のやりたい放題ないじめに不満を持っているが、必死に英徳学園に通わせてくれる親を失望させたくなかったため、何も言わずに黙り込んで学校生活を送っていた。ある日、つくしの友人がF4に絡まれ、友人を庇ったため、つくしはF4に赤札を張られてしまい、全学園の生徒からいじめられるようになった(図 花男-7)。しかし、つくしは学園中のいじめに屈することはなく、やがて道明寺を殴り、F4に宣戦布告をした。

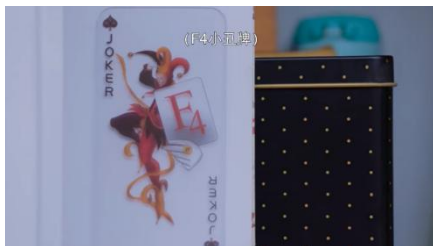


図 流星-4 (第1話, 00 : 27 : 18)



図 流星-5 (第1話, 00 : 18 : 22)

『花男』に出てくる「赤札」は学校でのいじめ問題を表している。一方、リメイク版ではいじめ問題にほとんど触れず、「赤札」は使われないが、代わりに「ジョーカーカード」が登場する(図 流星-4)。『流星2018』では、自分がF4より魅力があることを証明したい人がF4にブリッジで挑戦することができる。しかし、F4に挑戦したがる人が多すぎて、いちいち相手にする時間がないため、F4が、挑戦資格がある人だけに「ジョーカーカード」の招待状を送る。事前に負けた方の罰ゲームを決め、それを賭けてゲームをし、ゲームに負けた方は罰ゲームをすることになる。例えば、生物室での肝試し、小龍包を1時間食べ続けるや学期が終わるまでキャンパス内のゴミ拾いをする(図 流星-5)。負けた挑戦者は罰ゲームをする中で他の学生からのいたずらにあうこともある。しかし、これはすべて挑戦者が持ち出した罰ゲームのため、文句を言う人はなかった。『花男』で登場した、学校でのいじめの内容は全部変更されている。

中国のテレビドラマ審査制度によって、『流星2018』は背景を高校から大

学に変更し、F4 から生徒へのいじめ内容も変更せざるをえなかった。その理由は中国の広電総局が 2010 年 7 月 1 日に実施した『電視劇内容管理規定（日本語訳：テレビドラマ内容管理規定）』の第五条の第（十）項で「テレビドラマにおいて、未成年者の心身健康に有害な内容を含めることを禁止する」と規定されているためである。

中国では、ドラマを撮影する前に、まずは所属地域の人民政府広播影視行政部門<sup>18</sup>に申告し、撮影許可を得る。以下は、『電視劇内容管理規定』の内容のまとめである。同規定では、撮影許可を得てから二年内テレビドラマを制作することになる。途中でドラマのタイトルや人物の名前などを変更した場合は、もう一度申告する必要がある。そして、撮影が終わったドラマ作品を所属地域の人民政府広播影視行政部門設立したテレビドラマ審査機関に提出し、内容審査をする。二回目の審査が終わると放送可能になる。そのため、中国のドラマ撮影から放送までに、一年くらいかかるのが一般的である。ドラマを予定の時間内で放送するため、審査に通らない内容を申告前に修正し、撮影途中で変更することをできるだけしないようにする。『流星 2018』の脚本家方慧は「審査に通るため、脚本をそういう風に変更しなければならない。脚本書くとき既に放送後の評判を予想した。」と自分の SNS で語った<sup>19</sup>。

中国では、大学までは学校内に「早恋<sup>20</sup>禁止」という暗黙の校則がある。2015 年 5 月 14 日の『解放日報』の記事『禁止令は本当に「早恋」を防ぐのか？』<sup>21</sup>には、中国山東省済陽県第一中学（高等学校）が『男女非日常的付き合いに関する処罰規定』という校則を定めたことに言及している。その学校の校則では、「兄弟関係以外、男女一緒に自転車を乗ることは禁止され、もし一緒に乗った場合、一回目は警告され、二回目以降は退学処分」とされる。2017 年 6 月 30 日、中国網絡視聽節目服務協会<sup>22</sup>が『網絡視聽節目内容審核通則』<sup>23</sup>（日本語訳：『インターネット視聽番組の内容審査通則』）を実施し、インターネット番組で「早恋」、「炫富<sup>24</sup>」「暴力」などを含む表現を禁止することを明記した。学校側や保護者側は、大学入試までは勉強第一であり、学校内で恋をすると、勉強の邪魔になるから禁止した方がよいと考えている。そのため、大学では高校より自由に恋愛ができるので、『流星 2018』は舞台を高校から大学へと変更した。

「早恋」の他には、「炫富」の内容も制限されている。これも、経済力や貧富の差を見せつける表現を禁止する規定のため、舞台設定を変更しなければならない。『花男』には、つくしと F4、また英徳学園の生徒達の貧富の差がよく見られる。『花男』の第 2 話では、つくしが登校中に、知らぬ男たちに口を塞がれ、意識がない間に車で道明寺の家まで連れて行かれる。その後、黒いド

<sup>18</sup> 人民政府広播影視行政部門：テレビドラマの審査部門。広電総局に所属。

<sup>19</sup> 楊文杰（2018）「新版『流星花園』：一心想翻新或將成「流星」？」

（[http://ent.chinadaily.com.cn/2018-07/17/content\\_36591801.htm](http://ent.chinadaily.com.cn/2018-07/17/content_36591801.htm)）（2020 年 10 月 19 日取得）

<sup>20</sup> 早恋：早すぎる恋愛。一般的には高校卒業までの年齢に恋愛することが「早恋」と見られる。保護者や学校側が使うことが多い。

<sup>21</sup> 封寿炎（2015）「一紙禁令就能“防早恋”？」『解放日報』

<sup>22</sup> 中国網絡視聽節目服務協会：中国のインターネット番組を審査する組織。

<sup>23</sup> 中国網絡視聽節目服務協会（2017）「中国網絡視聽節目服務協会發布『網絡視聽節目内容審核通則』」

<https://web.archive.org/web/20170630135640/http://www.cnsa.cn/2017/06/30/ARTI0Qg4cp7jtd1Z5o0RnfzM170630.shtml>（2020 年 10 月 19 日取得）

<sup>24</sup> 炫富：富裕のことをひけらかす行為を指す。

レスを着させられ、首には高価なアクセサリが付けられている姿になった状態のつくしが目覚める。鏡の中の自分を見て、驚いたつくしの後ろで、道明寺が笑っている。

道明寺「1億だ。」

つくし「はあ？」

道明寺「お前にかけてやった金額だよ。」

つくし「1億！」

道明寺「トータルエステとヘアメイクに1000万、ドレスに2000万、ネックレス、指輪、その他装飾品もろもろ合わせてざっと1億だ。」

つくし「まさか、これを貸しにして、私を借金苦に突き落とすつもり？」

道明寺「ナメルな。そんなもん欲しけりゃいくらでもくれてやるよ。」

……

道明寺「人の心なんてもんは、金の力で簡単に動かさなんだ。お前も所詮その程度なんだよ、ト庶民が。」

……

つくし「世の中には、お金でどうにもできないもんだってあるのよ。」

(TBS, 『花より男子』DVD-BOX, 第2話, 00:04:03~00:05:53)

自分が欲しがっているものが何でもお金で買えると思っていた道明寺の前に、学園で初めて自分に従わない人が現れた。道明寺はつくしが自分に宣戦布告をしたことを取り消して欲しいため、お金でつくしを動かせると思い、つくしにその格好をさせたのだ。しかし、つくしはお金で動く人間ではないから、断って立ち去った。このシーンでは道明寺の経済力がよく表れている。

しかし、『流星2018』における同じエピソードでは内容が大幅に変更された。大学の授業後、キャンパスを出るシャンツアイはスーの運転手に「スマホを壊した弁償と謝罪」という理由で、スーの家まで連れて行かれる。そこで、シャンツアイは無理やり白いドレスを着させられて、メイクなどをさせられた。そして、スー家のバトラーがシャンツアイをスーの部屋まで案内した。

シャンツアイ「なぜ家まで連れてきたの？こんな格好までさせて。」

スー「どうだ？大事にされて満足だろ？いいか、俺に従うなら彼女にしてやる。」

シャンツアイ「はあ？」

スー「俺の半径1メートル以内にいられるぞ。食事の時も隣に座れる。それに、会いたい時はいつでも会える。週1回学校に送迎して、授業の時には、うまいおやつや飲み物を用意できる。宿題も手伝ってやろう。誕生日の時は上海一番高級なレストランで食事する。ゲームでいくらでも課金してやる。海外旅行は年1回だ。もちろん、スマホが壊れても、すぐ新しいスマホを買ってあげるよ。最高に幸せだろう？」

……

シャンツアイ「何のつもりか知らないけど、施しは要らない、お金もスマホもね。帰る。」

スー「泣いて戻っても遅いぞ。俺は何でも手に入れる。何様のつもりだ？」

シャンツアイ「そんな話に乗らないわ。あんたが何をしても手に入らないものだってあるわよ。私がその一つよ。……」

中国語セリフ原文：

杉菜「你把我带你家来干吗？还有，干吗给我打扮成这样？」

道明寺「怎么样，享受这些服务应该很棒吧？我告诉你，只要你听话，我可以让你做我的女人。」

杉菜「哈？」

道明寺「不管我在哪儿出现，你可以站在我身后一公尺的地方。吃饭的时候也可以和我坐在一起。最重要的是你可以随时来找我，并且立刻就能见到我。我一个星期可以来接你一次上学放学。上课的时候给你送好吃的零食跟饮料。你学业上有任何问题我都可以教你。你过生日，我们去全上海最好的餐厅吃饭。打游戏，我可以尽我所能的送你金币还有财富。每年出去旅游一次。当然，手机坏了立马就可换新的。你应该感觉很开心吧。」

……

杉菜「也不知道你对我说这些话干吗。我不需要你的什么福利和享受，更不需要你给我钱和手机。我要回家。」

道明寺「我告诉你，你不要哭着后悔啊。这个世界上没有我得不到的东西。你以为你是谁啊。」

杉菜「我才不吃你这一套。怎么样，我就是你用全世界东西都交换不到的。……」

(Netflix『流星花園 2018』日本語字幕付き全話配信，第2話，00：13：07～00：14：45，筆者が日本語字幕内容を修正した。)

『花男』の道明寺と比べると、『流星 2018』のスーの経済力はそれほど強く表現されていない。シャンツアイの服装も高い服装ではなく、普通のドレスだった。また、道明寺の「1億」と比べて、スーの「うまいおやつ」や「ゲームの課金」などは小学生に通用するレベルの誘惑でしかない。放送後、中国のSNSではスーの家は「ショボくなった」というコメントが多く見られた。

また、審査制度により、原作ドラマには暴力的な内容があるため、未成年者に悪影響を与える恐れがあると判断し、リメイク版ではメインキャストのF4が暴力をふるいじめるといった内容が削除された。いじめ問題は『花男』の一番インパクトがあるところで、主人公がなぜF4に対して反発するのかも、この設定と関わっている。しかし、『流星 2018』では、審査制度に通らないと考え、脚本を修正し、物語を再構成せざるを得なかった。このような修正は、原作ドラマを見た観客にとって、まるで違うドラマとしか見えないであろう。

本章では『花男』と『流星 2018』の比較分析をし、中国の厳しい審査制度により、リメイクドラマの人物像とエピソードをどのように変更するのかを判明した。また、変更した人物像も物語の再構成と繋がるのが分かった。

## 第3章 『家売るオンナ』と『安家』の比較分析

### 3-1 主人公の人物像と家族構成

ドラマ作品には、常に国や地域の文化・社会が反映されている。そして、リメイクドラマでは、どのような位置付けを表しているのかということも、検討すべきところである。ドラマがリメイクされる時、必ずしも越境できない内容がある。これらの内容は「文化の回路」の「アイデンティティ」というプロセ



スから考察できる。まずは人物像の変更による物語の再構築に関わる「表象」から分析する。

『家売るオンナ』（全10話）は2016年に日本テレビ系「水曜ドラマ」枠で放送された日本の完全オリジナルテレビドラマである。2019年に第2シリーズとして『家売るオンナの逆襲』（全10話）が放送された。『家売るオンナ』は天才的不動産屋・三軒家万智がチーフとしてテーコー不動産新宿営業所売買仲介営業課に異動してきたところからはじまる。常識に縛られず、独特の哲学で家売りまくる彼女の働き方は新宿営業所の課長や社員たちも影響を与えた。彼女なりの方法や手段で様々な家売るストーリーである。

中国では2020年2月21日から、リメイク版の『安家』（全53話）が東方衛星テレビと北京衛星テレビで放送された。リメイク版では、主人公房似锦は上司から指示を受け、経営不振の安家天下不動産の静宜支店に派遣され、店長の徐文昌と一緒にダブル店長を務めることになった。家さえ売れば手段を選ばない「強い女」房似锦が、店長の徐文昌や他の社員に刺激を与えていくというストーリーの、「家」をめぐるヒューマンドラマである。

本研究で比較分析とする対象は、日本テレビが発売した『家売るオンナ』DVD-BOXの内容と、中国のテンセントビデオで全話配信された『安家』の内容である。

日本テレビ『家売るオンナ』の公式サイトには、下に示すメインキャストの相関図（一部）が掲載されている。今回比較分析する人物は、下図に紹介された三軒家万智、屋代大、足立聡、布施誠、この四人である。



『家売るオンナ』相関図（一部）<sup>25</sup>

『家売るオンナ』の登場人物の名前は、家または部屋に関係がある語句が用

<sup>25</sup> 日本テレビ『家売るオンナ』公式サイトより。(https://www.ntv.co.jp/ieuru/) (2020年12月7日取得)

いられている。例えば、主人公三軒屋万智の苗字には「三軒」が入っている。『日本国語大辞典』では、「三軒」は三つの家の意味である。また、メインキャストの屋代大の苗字も部屋に関係がある「屋」の文字が入っている。これによって、不動産にまつわるドラマの内容にぴったりの苗字という印象が与えられている。それに対して、『安家』にも同じような工夫がなされている。房似锦の苗字「房」には「部屋」と「家」の意味がある。しかし、『安家』の主人公の名前は中国風アレンジされた上、さらにまた深い意味が込められているのである。主人公の本名は「房四井」であるが、その発音は「房似锦」とほぼ同じである。本名の由来は、四女として生まれ小さい頃母から井戸に投げられた主人公に対し、助けにきた祖父が名前を付けたからである。主人公は残酷な過去を隠すため、普段は「房似锦」と名乗っている。日中両作とも、ドラマの冒頭では主人公の生い立ちなどはほぼ謎で、ストーリーが展開されていくにつれ、徐々にその謎が解き明かされていく。

『家売るオンナ』	『安家』
三軒家万智 テーコー不動産のチーフ。 「サンチー」と呼ばれている。	房似锦（房四井） 安家天下不動産のダブル店長のうちの一人。 本名は「房四井」である。
屋代大 テーコー不動産の課長。 社員から課長と呼ばれている。バツイチで独身。女性不信。	徐文昌 安家天下不動産のもう一人の店長。 社員から「徐姑姑」と呼ばれている。家を買うため、妻と「偽装離婚」をした。
足立聡 テーコー不動産のエリート営業マン。 誰から見ても心優しく、皆に「王子様」と呼ばれている。	王子健 安家天下不動産のエリート営業マン。 名前には「王子」が入っているため、「王子」と呼ばれている。
布施誠 テーコー不動産のベテラン営業マン。	謝亭豊 安家天下不動産のベテラン営業マン。 「老謝」と呼ばれている。

※両作人物名前の比較表（筆者まとめ）

両作の主人公の最も大きな違いは、家庭構成である。三軒屋は、高校2年生の時に事故で両親をなくした。まだ学生であった彼女は、父親が抱えていた膨大な借金を返済するために自宅を売却しなければならなかった。それでも、借金は完済できず、ホームレスになり、公園で生活していた経歴がある。そのため、三軒屋は「家」のことについて普通の人より執念深い。現在は「一家8人惨殺事件」が発生した事故物件に住んでいる。その理由は単純に家賃が安く、「家」には罪がないと考えているからである。作中、第7話では、実家の撤去を断固反対していた社員に対して、三軒家は自ら過去や生い立ちについて告白した。

三軒屋：「私は昔ホームレスだった。両親が死んだ後、一人っ子だった私には父の借金が残された。かばってくれる大人はおらず、気付いたら何もかも失って、公園で暮らしていた。その時、私は高校2年生。季節は梅雨だった。育った家を追い出される時のことを私

は今も夢に見る。雨の日の朝だった。私は今も、過去に縛られている。だから私はこうなんだ。今も家にこだわっている。家を追われた過去から解放されない。だから今も家を売っている。……家を失った時、心にあいた大きな穴を埋めるために、私は家を売り続けている。いくら売っても穴が埋まらない。過去から解放されない。」

(日本テレビ、『家売るオンナ』DVD-BOX, 第7話, 00:42:57~00:44:40)

このセリフは、三軒屋が家にこだわっている理由を説明し、謎だらけだった人物像が解明されている。彼女の独特な、人に理解されない手段で家を売る様子も説明がつく。過去の闇があるからこそ、「家」のことを誰よりも知っており、顧客の要望を洞察できる。彼女は家を売る時、不思議と人の心をわしづかみにする。過去の闇の設定によって、人物像がより豊かになっている。

三軒屋の外見はロングヘアで、カジュアルな服装をしている(図 家-1)。言動は常に機械的かつ無表情なロボット人間である。口癖は部下に仕事を指示した後に発する「ゴー!」や家を売る決心を示す「私に売れない家はありません!」などであり、自信を持ってバリバリ仕事をしている様子が見られる。それと比べて、『安家』の房はベリーショートの髪型で、常に黒いスーツを着ている(図 安-1)。話し方は落ち着いて、いつも自信があり、微笑んでいる。三軒屋より表情が緩やかだが、同じく「没有我賣不出去的房子(日本語訳:私に売れない家はありません)。」という口癖がある。

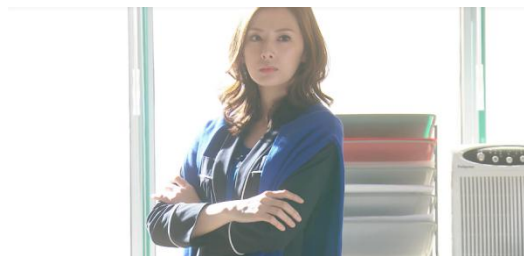


図 家-1 (第1話, 00:04:53)



図 安-1 (第1話, 00:11:45)

そして、『安家』では房の家庭構成には、大きく改編がなされている。彼女は「重男軽女<sup>26</sup>」の中国の伝統的農村家庭に生まれ、三人の姉と弟一人がいる。男の子が欲しい両親は、四人の娘を産んだ後、やっと一人の男の子に恵まれた。しかし、五人の子供がおり、貧しかった房の両親は、まだ赤ん坊であった房を家の外の井戸に突き落とし、殺そうと考えていた。最後には房の祖父が助け、彼女を成人まで育てた。房は社会人になっても、常に母から金をせびられ、自分が稼いだ金を弟に差し出さねばならない人生を送っている。第10話では、母が房の職場で騒ぎを起こしたため、彼女は母に自分の給料をあげた。その後、店長に自分の家族について話し始めた。

房似锦「我が家には五人の子ともがいる。私は四番目の子だ。三人の姉と弟一人がいる。母は私を産んだ後、女の子と知ったとたん、家の外の井戸に捨てそうとしていた。……親に要らない子は、名前なんかつけられるだけでも十分にありがたいのさ。……私は母が井戸に捨てそうとした、四女の房四井だ。」

<sup>26</sup> 重男軽女: 「男尊女卑」と同じ考え方で、中国の伝統的家庭内(特に中国の農村家庭)でよく見られる。

中国語セリフ原文：

房似锦「我们家5个孩子，我排行老四。上面有三个姐姐，底下一个弟弟。她生下我之后，发现又是女孩。她想的第一件事情，就是要把我扔在井里头淹死。……家里不想要的孩子，能给个名就已经不错了。……我是房家要仍在井里头没死成的老四，房四井。」

(テンセントビデオ, 『安家』全話配信, 第10話, 00:24:01~00:44:40, 筆者訳)

房の家庭の問題は、現実の中国の社会問題と関わっている。実際に房のような経歴がある人は少数ではない。そのため、房と母の内容は視聴者の共感を喚起できる。また、中国の伝統的な出産・育児観について、鄭(2017)は主に「伝宗接代(家系を継ぐ)」、「重男軽女(男尊女卑)」、「多子多福(子どもが多ければ、幸せも大きい)」、「早婚早生(早く結婚し、早く出産する)」であったと指摘している<sup>27</sup>。長い歴史の中で、男性中心の社会文化が根付いてしまったのである。中国の人口の変化にも、この社会文化が見られる。また、2015年まで実施された「一人っ子政策」の影響で、多くの家庭は子供を産む時、子供の性別を選択するケースが増えた。そのため、中国は2020年には、20歳から45歳までの人口の中で、男性の数が女性の数よりも、3000万人も多いだろうと予測された<sup>28</sup>。

『安家』では、人物像をより複雑にするため家族構成に工夫をし、現代中国の事情に合わせ内容が増やされたと考えられる。

### 3-2 職場ドラマから見る日中不動産の違い

両作品とも不動産に関するドラマであるため、必ずどちらのドラマにも不動産会社による家の売買シーンが登場する。『家売るオンナ』には、日本独特の不動産文化が表象されている。例えば、第1話では、三軒屋が社員に看板を持たせ、新宿駅に立って道行く人に物件を営業させる様子がある(図 家売る-2)。このように看板を持つ人は「サンドイッチマン」と呼ばれている。



図 家売る-2 (第1話, 00:16:59)

また、日本と中国の家探しのケースには、各自の特徴がある。例えば、『家売

<sup>27</sup> 鄭娟輝(2017)「一人っ子政策」と中国人の出産・育児観の変化—中国広東省を事例に—『言語と文明:論集』15, p81.

<sup>28</sup> 近藤大介(2018)「間もなく、中国が3千万人の「余った男たち」で埋め尽くされる「一人っ子政策」の恐ろしい副作用」(<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/56137>) (2020年12月7日取得)

るオンナ』では、ある夫婦が実家に 20 年間引きこもった息子のために家を探している、というケースがある（図 家売る-3）。年をとった両親は、今住んでいる家売って、質素な家に住み替え、引きこもりの息子にお金を残したいという願望を持っていたが、それに対して三軒屋は、引きこもりの息子に賃貸用マンションを買うよう説得していた。



図 家売る-3（第2話, 00:36:22）

三軒屋「引きこもられたお気持ち理解しました。あなたが社会に断絶するに十分な理由だと思います。でも、このままでは、あなたは餓死します。この家に住み続けた場合、あなたの最大引きこもり可能期間は9年10ヶ月。そのあとは月11万円を自力で稼がないと生きていけません。それを回避するには、賃貸用マンションを、今、ご両親に買っていただき、引きこもり大家となって、1人になっても生きていけるライフラインを整えるしかないのです！このご提案は、あなたが生き延びるための最強サバイバルプランです。」

（日本テレビ、『家売るオンナ』DVD-BOX, 第2話, 00:36:04~00:36:57）

そして、三軒屋は彼に100歳まで引きこもるための最強の家を探してきた。このような内容は、日本に独特である、引きこもり問題という深刻な社会問題を表している。日本の総務省の「人口推計」（2018年）によれば、15~39歳人口は3445万人であり、そのうちひきこもりの推計数は54.1万人になる。また、40~64歳人口は4235万人であり、引きこもりの推計数は61.3万人になる。合わせて、引きこもりの推計数は100万人を超えることが分かる<sup>29</sup>。そのような社会問題が、ドラマに反映されている。

引きこもり問題の他、嫁姑問題を抱えた一家が、お互いのプライバシーを確保したまま同居できる二世帯住宅を探しているケースも登場している（図 家売る-4）。

<sup>29</sup> 桑原利佳・POWER NEWS編集部（2019）「ひきこもり100万人超：日本では家族単位で社会から孤立する」  
（<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/c07401/>）（2020年12月7日取得）



図 家売る-4 (第9話, 00 : 38 : 50)

雨宮嘉一 (父) 「ここなら、別に住んでるのと同じことだな。」

雨宮智代 (母) 「会いたくなければ、会わないで暮らせるし。」

雨宮礼 (息子の嫁) 「だったら離れて暮らしていればいいじゃないですか。今までどおり。」

三軒屋 「離れて暮らしていれば、生きてるか死んでいるかもわかりません。でもここなら、生きてるか死んでいるかの気配くらい分かります。遠くて近い、近くて遠い、雨宮様に最適な家なのです。」

(日本テレビ, 『家売るオンナ』 DVD-BOX, 第9話, 00 : 36 : 04~00 : 36 : 57)

中国では、親子二世代が同じ屋根の下で暮らすのは珍しいことではないが、日本ではそうではない。子供が結婚した後実家から独立し、親元を離れて生活するのが一般的である。

三軒屋 「壁があって、いつも顔が見えないからこそ、相手のことを思いやるのです。いつも一緒なのではなく、わざわざ会いに行くから愛着がうまれるのです。……奥ゆかしく相手をおもいやるそれが日本の美徳です。距離感のある、さりげない愛情表現は日本独特の文化です。」

(日本テレビ, 『家売るオンナ』 DVD-BOX, 第9話, 00 : 47 : 14~00 : 48 : 57)

年を重ねた親とは、遠く離れて住むとお互い気にかけることができない。一緒に住むと、各自のプライベートを確保できない。そういった問題を解決するため、二世帯住宅が誕生した。この二世帯住宅には日本特有な文化が保たれている。

家の売買から、日本社会における様々な問題や文化を見てとることができる。同じように、『安家』にも、中国社会に特徴的な不動産文化が見られる。例えば、中国の不動産会社がよく朝礼として、社員全員で店の外に出ていき、大きな声で企業の理念などを叫んだり、踊ったりすることである。ドラマにもそのシーンが出ている (図 安家-2)。このような「朝礼」の発祥は日本の不動産会社であり、実際に中国において取り入れられている。



図 安家-2 (第1話, 00:02:36)



図 安家-3 (第3話, 00:05:22)

また、不動産会社の売買業務に、中国の社会問題と文化が反映されている。例えば第2話では、店長の徐は2軒目の家を買うため、妻と「偽装離婚」をした(図 安家-3)。中国では2011年、住宅購入規制が導入され、北京や上海などの大都市では住宅購入に数の制限がある。また、結婚した人は、住宅を購入できる数は夫婦で1軒となる。そのため、離婚して、もう一軒の家を購入する夫婦がいる。新しい住宅を購入したのち、離婚した夫婦が再び結婚する。そのような行為は、住宅購入規制回避のための「偽装離婚」と呼ばれている。「偽装離婚」による規制回避がさまざまな問題を起し、中国政府は新たな規定を加えた。

中国人が家を買う時は、たいていは「風水」にこだわる。例えば、「坐南朝北<sup>30</sup>」の家を好む。また、家には「財位<sup>31</sup>」があるとされ、その「財位」がどこにあるのかによってその家の価値も変わる。この点には、日本人と大きな違いがある。日本人は日当たりや、最寄り駅等にこだわっていることの方が多い。おそらく、風水にこだわっているという人は、少ないのではないだろうか。

『安家』では、風水の先生と一緒に家を内見する顧客もいる。ドラマの第31話にて、上海で商売をしている黄は、風水の先生が認めた家しか買わない。房がいくら黄の希望に従って物件を探しても、風水の先生の一言で、全部が水の泡になる。その後、房の調査により、この風水の先生は、実は詐欺師であることが判明する。顧客が騙されないように、房はこの事実を黄に告げた。しかし、このことは黄の信仰心を傷つけてしまう。

房似锦「黄さん、風水の魯先生の事について、お聞きしたいことがあります。黄さんと魯先生はどのように知り合いましたか？」

黄「君も先生のこと気になるだろう。……先生は俺の凶を化煞(かさつ)してくださった。そうじゃないと、俺はとっくに死んでいたかもしれない。だから、先生は俺の命の恩人だ。」

房似锦「家を内見する日、魯先生もご一緒でしたね。その時、先生はあの家の財位は保姆間<sup>32</sup>にあるとおっしゃいました。果たして財位はどんなものなのか、我々も知ることができないでしょう。」

黄「失礼なことを言うな！財神に失礼だろう。……」

……

房似锦「ある通話の録音を黄さんに聞いて欲しいのです。」

録音・房似锦「私は風水のことをよく知らないのですが、魯先生にお聞きしたいことがあって

<sup>30</sup> 坐南朝北：昔中国には建物の背中を北に向いて、門は南にある建物が多いである。また、南向きは「帝王の座」とも見られる。現在では、日当たりなどを考え、部屋が南向きのが一番いいと言われている。

<sup>31</sup> 財位：財気が貯まる方位を指す。

<sup>32</sup> 保姆間：家の中にある、家政婦などが住む部屋のこと。一般的にはキッチン側にある。

……」

……

録音・魯先生「風水は目に見えないし、触れることもできないものだ。全部、私の言葉次第だ。私がいいと言ったら、それはいいんだ。良くないと言ったら、それは良くないんだ。あなたは、家を売りたいのかい？ 売りたいなら、私と手を組まないか？」

録音・房似锦「それはどういう意味でしょうか？」

録音・魯先生「私は上海のたぐさんのお金もちの八字<sup>33</sup>を持っている。……彼らがどの家を買うのか、全て私が決めるのだ。」

黄「何だこれ、ウソだろう？」

房似锦「これは私と魯先生の通話の録音です。」

黄「魯先生だなんて、そんなはずがない！ これを俺に聞かせて一体どういうつもりだ？」

房似锦「私が魯先生について、色々調べました。彼の本名は庄です。詐欺の前科があります。……風水や財位など、全部ウソです。彼は黄さんを騙そうとしています。」

……

黄「よけいなお世話だ！ あなたは、家を売ればいいんじゃないのか？……俺は先生を信じていて、先生は俺を助ける。それでいいんだ。……」

……

黄「君が俺の信仰する心を傷つけた。……これまでの俺の人生には、道を示すともしびがあった。君がそれを消した。……俺は君からは家を買わない。出ていけ！」

中国語セリフ原文：

房似锦「黄老板，我想和你打听个事，那个鲁大师，您跟他是什么交情？」

黄「看来你对鲁大师也感兴趣。……大师又是我的救命恩人，如果不是大师帮我化解凶煞，怕是我人早就躺在医院 ICU 里了。」

房似锦「黄老板，那天鲁大师说财位在保姆间。可财位长什么样，咱谁都没见过呀。」

黄「你不能这样说话，容易得罪财神爷的。……」

……

房似锦「黄老板，我这有一段录音想放给您听一下。」

录音・房似锦「因为我对风水这方面不是很了解，想请大师指点指点。……」

……

录音・鲁大师「风水这东西，看不见也摸不着。我说它好它就是好，我说它不好它就是不好。想把房子卖出去吗？咱们合作。」

录音・房似锦「怎么合作？」

录音・鲁大师「上海有钱人多得是。……这种人的小八字呀攥在我手心里捏得紧紧的。他买房或是不买，不都是我一句话说了算吗。」

黄「假的，你这录音是假的。你哪弄的？」

录音・房似锦「这就是我和鲁大师的电话录音。」

黄「不可能，绝对不可能。鲁大师？你让我听这些你什么意思？」

房似锦「黄老板，我在网上查过，这个鲁大师本名姓庄，有诈骗犯罪记录。……他所谓的风水财位，那都是他在瞎扯。他就是想骗你的钱。」

……

黄「那你就好好卖房子嘛，你管那么多闲事干什么呀！……我给大师钱，他能替我消灾。……」

……

<sup>33</sup> 八字：中国で陰陽五行説を元にして生まれた人の命運を推察する方法である。



黄「可是你毀了我的信仰。……原来我的人生路上那是有指路明灯的，现在你把我灯关了。……你毀了我的信仰，我是不会在你这买房子的。送客！」

(テンセントビデオ, 『安家』全話配信, 第31話, 00:29:30~00:34:06, 筆者訳)

房は顧客の為に、風水の先生が偽物である事を告げた。しかし、何でも風水に従って動く黄にとって、風水は既に信仰となっている。風水の事は、絶対にウソや迷信と思われたくない。しかも、彼にとっては人生の得失と風水の運勢は繋がっており、心理面でも楽にいられる。黄の行為と考えは、中国人の信仰観を表している。

『家売るオンナ』は職場ドラマだが、リメイク版ではわざわざ家族関係の内容を入れて、まるで別の物語としている。『家売るオンナ』は一話に対し一つの物語、という構成であり、必ずその一話の終わりには家を売る、という設定である。不動産会社の社員目線の住宅売買を通じ、様々な要望を持つ顧客と出会うことで、日本社会の縮図が見えてくる。

しかし、『安家』はメインの職場の内容より家庭ドラマの要素が強い。その最も大きな理由は、中国社会は「人脈」、いわゆる人間関係を大事にするからである。『安家』では、老洋房<sup>34</sup>をめぐる財産争奪戦のエピソードもある。上海の老洋房は、中国の伝統文化と各国の建築文化が融合した建物として、古い歴史を持っている。そのため、価値も普通の住宅より高い(図 安家-4)。



図 安家-4 (第36話, 00:06:32)

老洋房は上海の一つの風情を創り出す、重要な建築物である。しかし、『安家』では、老洋房に関する紹介はほとんどなく、話の中心は老洋房を売るか売らないかになっている。ドラマの第37話では、老洋房の所有権を持っている三人のうち、二人が元の所有者の子供である。この二人は老洋房を安く売却したくないため、様々な言い訳をして、家の売却を妨げている。しかし、もう一人の所有者は、早めに家を売却して、そのお金を夫の病気の治療に使いたいと思っている。この夫婦の家族間の愛情と財産の話は、この老洋房の売却から展開されている。

『安家』は、一つの物件について3~5話をかけて描く。『家売るオンナ』と違って、『安家』は家を買う方の話より、家を売る側の話がメインとなっている。一見、女性が主人公の職場ドラマのように見えるが、その本質は家庭ドラマといってよい。この点について、『安家』は中国最大のレビュー・コミュニティサイト「豆瓣 (douban)」では6.3(満点は10点)しか獲得できていな

<sup>34</sup> 老洋房：1949年以前に上海の租界に建てられた庭付きの戸建て住宅(洋館)である。

い<sup>35</sup>。『安家』は15万人が評価し、星1～5のうち、星3にした比率が一番多いことが見受けられる。このような評価から、視聴者が伝統的な家庭ドラマより職場ドラマを求めていると考えられる。リメイクドラマは現地の社会文化や慣習などに合わせてアレンジする「ローカリゼーション」が必要だが、『安家』では、そのアレンジの部分が原作内容より多い。リメイクドラマがどこまで「ローカル化」をし、原作の風味を最大限に保つのが、今後一つの課題ともなるであろう。

## 第4章 『Mother』と『不完美的她』の比較分析

### 4-1 人物像の比較分析

ドラマにはいろいろなジャンルがある。学園ドラマの『花男』と職場ドラマの『家売るオンナ』の他に、社会の現実状況を敏感に捉え、それをテーマにした社会派ドラマもある。芳賀ほか(2014)は「ドラマは、フィクションでありながらそのテキストは社会の現実と意識を反映し、また人びとの社会的現実の認識に影響を与える」と指摘している。社会問題を題材に制作された社会派ドラマは、少なからず社会現実の問題を反映している。制作側はドラマから社会へのメッセージを発信し、視聴者側はそのメッセージを受け、そして影響され、またその影響を他の方式で表現する。このような表現はドゥ・ゲイの「文化の回路」の中の「消費」というプロセスから考察できる。

国によって、社会的状況と時代的背景はかなり違いがある。社会派ドラマには、その国に独特の社会問題を描写している作品がある。本節が比較分析する作品では、世界中で共有されている児童虐待と家庭暴力という社会問題を「母性」と結びつけて描いた作品である。日本ドラマ『Mother』(全11話)は2010年に日本テレビで制作、放送された完全オリジナル社会派サスペンスドラマである。2016年にトルコで『ANNE』というタイトルでリメイク版が制作された。その後、韓国では2018年にリメイクされた。2020年に中国も『Mother』のリメイク版を制作・配信した。同年、タイでもリメイクされた。それ以外にも複数の国がリメイクした。本研究で比較分析する対象は日本テレビが発売した『Mother』DVDの内容と中国のテンセントビデオで全話配信した『不完美的她』の内容である。

まずは『Mother』と『不完美的她』の登場人物から分析する。本節で比較分析する人物は主人公の鈴原奈緒と教え子の道木怜南、この二人である。

『Mother』では、昔母に捨てられた奈緒は、7歳の頃里親に養女として育てられた主人公の鈴原奈緒(以下は「奈緒」と略す)は室蘭市の大学で渡り鳥の研究をしていた。施設の閉鎖により小学校の教師となる。そこでクラスの教え子である道木怜南(以下は「怜南」と略す)に懐かれる。怜南が母とその恋人から虐待を受けた事を知り、彼女を「誘拐」し、親子として逃亡生活を送るようになる。その後、東京に逃亡する二人は奈緒の実の母と遭遇する。一方、『不完美的她』(以下は『不』と略す)では、主人公林緒之(以下は「緒之」と略

<sup>35</sup> 『安家』が「豆瓣(douban)」での評価は2020年12月7日に取得したものである。

す)は友人の会社でサーバーセキュリティエンジニアとして働いている。5歳の頃母に捨てられ、里親が養女として育ててられた。彼女は実の母を探す中で、偶然に家で虐待されている女の子蓮生(以下は「蓮生」と略す)に出会う。蓮生を助けるため、彼女を連れ去り、親子として新しい生活を送るようになる。

両作が最も違うところは、主人公の職業と虐待されている子どもとの出会い方である。『Mother』では、奈緒は研究員から小学生の教師になり、学校で怜南と初めて出会った。渡り鳥を研究している奈緒は、誰に対しても無愛想で冷たく、子供が苦手な人である。こんな彼女が小学校の先生になると、周りの教師との違和感が強く感じられてくる。学校の中庭で飼っていたあひるが死んだため、奈緒は生徒たちに死んだあひるに向けて手紙を書かせていた。クラスの中で何も書いてない怜南に気づき、奈緒は話かけて、理由を尋ねた(図 M-1)。



図 M-1 (第1話, 00:05:30)

鈴原奈緒「道木さんよね。」

道木怜南「うん。」

鈴原奈緒「あと10分しかないけど。」

道木怜南「う〜ん、えっと、これ書かなきゃダメ？」

鈴原奈緒「どうして、書けない理由でもあるの？」

道木怜南「あひるは手紙読めないからよ。死んでるから、手紙読めないでしょ？あひるは字習ってなかったから、読めないでしょ？」

……

道木怜南「あとね…」

鈴原奈緒「何？」

道木怜南「天国ってある？土の中のこと？」

鈴原奈緒「書きたくなかったら、書かなくていいわ。住所が天国じゃ、郵便屋さんも困るわね。」

(日本テレビ、『Mother』DVD, 第1話, 00:05:32~00:06:37)

奈緒は他の子供より成熟している怜南に、手紙を書かなくてもいいと告げた。その後、奈緒の円型脱毛症に気づいた怜南は、奈緒にニット帽子をプレゼントする。それから、奈緒は他の子供たちと少し違った言動をとる道木怜南の事に気になるようになった。

一方、リメイク版では、緒之の職業は教師ではなく、サーバーセキュリティエンジニアと変更された。その理由は、実の母を探すための情報収集ができるからである。緒之は冷淡な性格で、母親に捨てられてトラウマを抱えている。

彼女は実の母を探すために大連へ向かうが、そこで緒之と蓮生は赤の他人として、偶然海辺で出会い、知り合うようになった（図 不-1）。



図 不-1（第1話, 00:04:56）

林緒之「この旅で、私は色んな人と出会った。私と同じような経歴がある人に、あったらすぐわかるだろう。」

……

穆蓮生「私の名前は穆蓮生なの。……穆蓮生だよ。おばさんは？」

林緒之「緒之、林緒之だ。」

穆蓮生「林緒之だね。」

林緒之「こ、これは？」

穆蓮生「これは五芒星と呼ぶの。人を強くにして、そして幸せになれるの。」

中国語セリフ原文：

林緒之・旁白「这一路上我遇到很多人，那些与我有着类似经历的人，我们会一眼认出彼此。」

……

穆蓮生「我叫穆蓮生。……我是穆蓮生，那阿姨你叫什么呀？」

林緒之「绪之。林绪之。」

穆蓮生「哦，林绪之。」

林緒之「这，这什么？」

穆蓮生「这个叫五芒星。它会让你更坚强，也会给你幸福。」

（テンセントビデオ、『不完美的她』全話配信，第10話，00:04:20～00:05:48，筆者訳）

緒之は海辺で、カモメに食べ物をあげたがっている蓮生と遭遇し、彼女の腕の傷に気づく。人と接触することが苦手な緒之は、蓮生に何も聞かなかった。むしろ、積極的に話しかけてくる蓮生に戸惑ってさえいた。その後も、何度も同じ場所で蓮生と出会うなかで、だんだんと彼女のことが気になるようになった。『Mother』では、奈緒と怜南の繋がりがはっきりしていたが、『不』では偶然に出会った人として、二人には何の繋がりもなかった。それは、主人公の人物像の変更により、物語を再構成せざるをえなかったためである。

また、『Mother』で主人公と同じく重要となる怜南の役柄は、家庭で母とその恋人から虐待を受けている。そのため、彼女はいつも自分の本当の気持ちを抑え、人の顔色を伺う。母に自分の大事なものを勝手に捨てられても、平気な顔を装っている。自分の恋人が怜南に口紅を塗ってあげているところを見た怜南の母は、怒鳴って怜南を叩き、怜南をゴミ袋に入れ、夜の屋外に放置する。その後、家に訪ねてこようとしている奈緒によって助けられる（図 M-2）。



図 M-2 (第1話, 00 : 53 : 18)

助けられた怜南は奈緒に対して、札幌にある赤ちゃんポストに連れて行ってほしいと懇願する。奈緒は怜南と一緒に海辺へ行き、渡り鳥を見に行くようになった。そこで、奈緒が怜南に「あなたのお母さんになる」と言い出す。

鈴原奈緒「道木さん、聞いて。私、あなたを誘拐しようと思う。」

道木怜南「先生、牢屋に入れられない？」

鈴原奈緒「そうね、入れられるかもね。」

道木怜南「牢屋は石で出来てるんだよ。冷たくて、暗くて、ネズミが出るの。お風呂にも入れないの。」

鈴原奈緒「そうね。」

道木怜南「ダメだよ。」

鈴原奈緒「ダメなことしかできないの。間違ってるかもしれない。あなたをもっと悲しい目に遭わせるかもしれない。でも、私、あなたの、あなたのお母さんになろうと思う。あなたと二人で生きて行こうと思う。」

道木怜南「先生？」

鈴原奈緒「先生じゃダメ？」

道木怜南「え…」

鈴原奈緒「4月1日、分かる？」

道木怜南「明後日。」

鈴原奈緒「ウソをついてもいい日なの。ウソをつくの。この町を出て、誰も私とあなたを知らない場所に行くの。そこでは私はあなたのお母さんで、あなたは私の娘。絶対に誰にも知られちゃいけない。一生ウソつき続けなきゃいけない。いえる？ 一生、これから先、一生。誰にも知られないように。私のこと、お母さんってウソいえる？ 怜南、お母さんって、いえる？」

道木怜南「お母さん、怜南のお母さん。お母さん、お母さん、怜南のお母さん。」

鈴原奈緒「あなたは捨てられたんじゃない、あなたが捨てるの。」

(日本テレビ、『Mother』DVD, 第1話, 00 : 57 : 58~01 : 00 : 50)

海辺で奈緒が怜南を「誘拐」しようと思いつき、二人はこの日、親子となる。ゴミとして母に捨てられた怜南に、怜南が母を捨てることを提案する。その後、二人はともに逃亡するようになる。

一方、リメイク版では、この内容はほとんど変更された。蓮生は家で母の恋人から様々な虐待を受け、母は恋人が自分から離れないように、蓮生を何度も捨てようとしている。母の恋人に口紅を塗られた蓮生は母に嫌われ、「汚い」と言われた。その後、再び海辺で緒之と出会い、蓮生が緒之に自分のことを守

ってくれないかと尋ねる。緒之が蓮生をそのまま連れていこうとすると、蓮生の母に見つかり、失敗してしまう。

蓮生のことを心から放っておけない緒之は、彼女の家までつけていき、蓮生の母の恋人と遭遇する。その日の夜、母の恋人は蓮生を家に閉じこめ殺そうとし、ガスをつけたまま蓮生の母と遊びに出かけた。緒之が再び蓮生の家に訪れ、火事の中から蓮生を助け、連れ去る（図 不-2）。



図 不-2（第4話, 00:12:02）

林緒之「よく寝てた？」

穆蓮生「いいえ。」

林緒之「少しここで様子見るよ。」

穆蓮生「私たち、どこへ行くの？」

車内ラジオ「ニュースです。紅綿巷にある住宅が火事に遭い、家には7歳の女の子ひとりが置き去りにされていたということです。女の子は現在行方不明です。」

穆蓮生「家に帰るの？」

林緒之「帰りたい？」

穆蓮生「もし、帰りたくないって言ったら、おばさんは牢屋に入れられるの？」

林緒之「蓮生、私と一緒にいっても、怖くない？」

穆蓮生「怖くない。」

林緒之「じゃ、私も怖くないわ。」

中国語セリフ原文：

林緒之「睡得好吗？」

穆蓮生「不好。」

林緒之「我们在这儿等一等。」

穆蓮生「我们要去哪儿？」

广播「本台刚刚收到消息，红棉巷一户居民家中燃起大火，据房主介绍，他们七岁的女儿独自在屋内，伤亡情况不明。」

穆蓮生「你会送我回去吗？」

林緒之「你想回去吗？」

穆蓮生「如果我不回去，你会坐牢吗？」

林緒之「蓮生，跟我走，你怕不怕？」

穆蓮生「不怕。」

林緒之「那我也不怕。」

（テンセントビデオ、『不完美的她』全話配信，第4話，00:14:34～00:15:32，筆者訳）

リメイク版では、緒之が二回も蓮生を連れ去ろうとしている。はじめに連れ去ろうとする際は、蓮生の母に見つかってしまい、失敗に終わる。しかしその後、緒之は死の瀬戸際に立った蓮生のもとへ駆けつけ、ついに蓮生は緒之によって連れ去られる。『Mother』では、怜南の母が彼女をゴミとして捨てたが、『不』では、蓮生の母の恋人が、母の知らないうちに蓮生を家に閉じこめて、殺そうとしている。その後、母とその恋人は蓮生が他人に連れて行かれたことを知り、警察に通報する。

以上は両作の人物像の比較分析であるが、リメイク版で最も変更されたところは、主人公と子どもの関係性である。これはドラマがリメイクされることによる、ストーリーの再構築である。

#### 4-2 女性をめぐる社会問題へ

社会派ドラマとして、『Mother』と『不』は社会的な議論を呼ぶ問題に注目し、その解決をも試みる。さらに、『Mother』は「母性」をキーワードに、主人公の女性が子どもの心に寄り添いながら、女性の視点で社会問題と対峙している。このようなドラマは、様々な社会問題に焦点を当てることで、視聴者にもそれらと向き合うことを促している。

そして、両作とも児童虐待、家庭暴力という二つの社会問題をテーマにし、物語が展開されていく。奈緒の母、望月葉菜（以下は「葉菜」と略す）は夫からDVを受け、奈緒を守るため、夫を殺した。葉菜はやむをえず奈緒を施設に捨て、自ら警察に出頭した。奈緒が施設に入れられた当時はまだ5歳で、その頃の記憶が曖昧になっていたため、母がなぜ自分を捨てたのかを知らないまま大人になった。奈緒は今でも自分が捨てられた理由を知りたがっており、当時の記憶がトラウマになっている。そのため奈緒は、自分と同じく母に捨てられた怜南に同情し、彼女を誘拐して、自分が母になることを決意した。ドラマの中では、葉菜はDV被害者でありながら、奈緒を捨てる母でもある。そして、奈緒は誘拐者でありながら、怜南の母でもある。両者とも、悲劇的な過去があるなかで、犯罪者となった。登場人物のそのような経歴から、視聴者は社会問題に直面していく。

両作ともに社会問題に関するドラマであるが、リメイク版は主人公が実の母を探すという内容が中心にされ、社会派ドラマというより家庭ドラマに近い。また、原作ドラマ『Mother』では既に死んでいた奈緒の父だが、リメイク版では生きている。そして、成人になった緒之と実の母を脅かす存在として描かれている。そのため、ドラマのストーリーの鍵となる子どもの存在感が薄くなり、蓮生の「母」として緒之という部分は曖昧なものとなった。

『Mother』の奈緒の人物像には二重性がある。それは、実の母に捨てられた「娘」としての存在と、怜南の「母」としての存在、という二重性である。怜南の視点から見れば、奈緒は母として怜南を愛している。実の母というものを渴望している奈緒が、自分と同じ遭遇にいる怜南を昔の自分と重ねながら「母性」を感じ、怜南の母になる。また、実の母と里親の視点から見れば、奈緒は二人の娘として、過去の葛藤とトラウマから解放されたいともがいている。リメイク版『不』では、その二重性のバランスは崩れ、物語は「娘」としての緒之の描写に偏っており、蓮生の「母」としての緒之の描写は薄くなっている。

リメイク版『不』は、中国ドラマではほとんど取り上げられることのなかった児童虐待と家庭暴力をテーマにし、女性の視点で社会問題を検討している。しかし、『Mother』と『不』両作における女性の社会的立場には、微妙な違いがある。リメイク版では、緒之の職場は女性を中心的な存在にしている様子が伺える。作品に登場する女性数人は、ほぼ全員自立している。緒之自身も、暮らしの上では何の不自由もない人物である。彼女の周りには会社を経営している女性の友達がおろ、いつも陰から彼女を支えている。これは現実の一般的な女性の立場とは違って、かなり恵まれた状況である。つまり、最初から主人公は「強い」立場に置かれたところから、ストーリーが展開されている。このような内容は現実の社会状況と結びつけにくいいため、視聴者からは共感を得られない部分となっている。

それと比べて『Mother』の奈緒は、実家から独立して、たった一人で北海道におもむき、研究を行うようになる。怜南を連れ去った時には、お金に困ってアルバイトを探さなければならない時期もあった。奈緒は、里親に迷惑をかけたくないため、困った時も自分ひとりで何とかするしかない。最後には里親に頼って、怜南を実家に連れてかえっていた。奈緒の描かれ方からは、女性が社会で「弱い」立場に置かれていることが見受けられる。『Mother』では、女性が「弱い」立場のまま、どのように生き抜くことができるかが描写されている。そのため、多くの視聴者、特に女性の視聴者から共感を得やすいと思われる。両作に表れた女性の社会的立場にはかなりの違いがあり、視聴者がそれを消費する時、どのように作品の内容を受け入れるかという部分にも影響を与えている。

日本では、児童虐待について明確な法律が制定されている。日本では2000年5月に児童虐待防止法が国会を通過し、11月に施行されてから、様々な児童相談所が設立された。しかし、法律と対策が準備されても、行政の手が行き届かない場合もある。『Mother』では、怜南に傷があることが小学校の教師によって気づかれ、児童相談所に報告されたが、確証がないため相談所は行動をとらない。虐待されている子どもはいつも親をかばうため、調査おこなうのも難しいのである。虐待の疑いがある子どもを保護するかどうか判断できるまで、時間がかかる。日本の児童相談所の現状がドラマで表されている。

一方、中国では、児童虐待について、明確な法律はいまだ制定されていない。日々増えている児童虐待事件に対し、「児童虐待罪」の追及が必要だと叫ばれているのである。中国の『刑法』には、虐待罪と故意傷害罪しかなく、児童虐待が発生した場合にはこの二つの罪が問われるのがほとんどである。しかし、これらは児童虐待に特化した罪ではないため、犯罪者への罰則が軽いのではないかという声も少なくない。

このように、社会派ドラマは現在の社会問題を取り上げることで、視聴者に訴えかけている。日本では、既に成熟した社会の中におけるさまざまな社会問題をテーマにしたドラマが中国より多い。中国も社会の発展にともなう社会問題が徐々に浮き彫りになり、注目されるようになってきた。そのような背景から、『Mother』や『不』といった社会派ドラマが現在中国のドラマ市場で求められているのではないだろうか。

## 第5章 比較分析のまとめ



## 5-1 リメイクドラマのローカル化

『花男』、『家売るオンナ』、『Mother』それぞれのリメイク版を比較分析し、「文化の回路」からアプローチしながら分析した、その結果、リメイクドラマに最も影響を与えるのは、審査制度に当たる「規制」とリメイクドラマのジャンル選択に当たる「消費」である。リメイクドラマは審査制度を回避するため、内容をローカル化するのである。

中国が日本のドラマをリメイク際には、内容を大幅に変更するのが一つの特徴となっていることが分かった。もちろん、そうではないリメイク作品もある。2017年ネット配信された『約會戀愛究竟是什麼（日本語訳：デート、恋とはどんなものかしら）』というドラマは、日本と中国のテレビ局によって共同制作されたリメイクドラマである。これは日中が戦略的パートナーシップを締結してから最初に制作されたものである。こちらの作品は、日本の原作ドラマ『デート～恋とはどんなものかしら～』とほぼ同じように制作された。登場人物の性格や人間関係、エピソードの展開から撮影方法・音楽まで、全て日本の原作ドラマと同じように撮影された。放送時間についても、中国の一般的な国産ドラマより半分以上短く、日本のドラマに近い1話につき35分の長さで、全20話となっている。放送後には、この作品は原作ドラマの完全なコピーだと言われた。

ここまで原作ドラマと似たように制作される理由は、日本側もドラマ制作に参入しているからである。原作ドラマの脚本家古沢良太は撮影期間中上海に訪れ、撮影の指導を担当した。海外映画などの作品をリメイクする際、原作に忠実に制作するか、内容を大幅に変更するかという難しい選択においては、これまで中国はほとんどの場合前者を選んできた。そのため、リメイク作品は単に中国人が演じる海外作品となっているため、リメイク版を見るより、原作ドラマを見るというのが多くの中国視聴者の考えである。それを覆すためには、リメイクドラマに含まれる制作国ならではの文化などの内容を、放送国のそれに入れ替えるべきという声もあげられる。いわゆる、ドラマのローカル化である。

本研究で比較分析をおこなった三つ作品には、それぞれある程度のローカル化がなされたところがある。例えば、学園ドラマの『流星2018』では、登場人物を高校生から大学生に変更した。中国では、高校生の恋愛は認めがたい事案であり、中国の実際の状況とそぐわないため、変更された。そして、審査制度により、ドラマの内容についても大幅に変更された。それは、社会の格差に考慮したためである。『花男』では、F4の四人は財閥の跡取りであり学校内のあらゆる権力を掌握している。しかし、『流星2018』では、F4の四人は、単に成績優秀な学生と変更され、学校内の上下関係は描かれなかった。また、『流星2018』以前の中国の国産学園ドラマでは、日本や韓国の制服をまねた制服が着用されていることが多々あった。ところが実際の中国の学生服は大体ジャージであり、女子もスカートではなくジャージのパンツを穿くのが一般的である。同じ学園ドラマというジャンルであっても、放送される国の現実とそぐってなければ視聴者に違和感を与えてしまうのである。そのため、近年の中国の学園ドラマは、国内の現実の学校生活を忠実に再現するドラマの方が人気がある。『流星2018』は中国の審査制度に従って、内容をローカル化した。リメイクドラマについても、中国の国産ドラマと同じように、審査制度に制限

されているということが言えるであろう。

職場ドラマの『安家』では、登場人物とその職業以外の物語全体が、ほぼ原作ドラマとは異なっている。主人公の家族関係についての内容は、中国に特有な家族間の親密性を表しているといえる。核家族が完全に定着している日本と比べて、中国は「多子多福」という伝統的な家庭観念の影響で、大家族の方が多し。そして、家族間の連絡も日本より親密である。そのため、家族関係を描写する家庭ドラマが今でも中国のドラマ市場の大部分を占めている。『安家』では、主人公が家族のなかで不当な扱いを受け、最後には自分の家族と縁を切る。このような内容は、近年の中国ドラマではよく見受けられる。『家売るオンナ』は職場ドラマであるが、リメイクにあたりわざわざ中国の家族関係の内容を含み込み、ドラマのジャンルごと変更した。『安家』は、原作ドラマにはない内容をあえて入れ、それをメインにしているが、それはローカル化していると言うよりも、完全に別のドラマとして構成しているとも言えるであろう。

社会派ドラマの『不』は、原作ドラマを忠実に再現しやすいドラマであった。ところが、あえて中国国内の状況を反映した、リメイク版としてのオリジナルな内容が追加された。中国では女性をテーマにするドラマは宮廷ドラマの方が多いため、現代の女性をテーマにするドラマが少ない。ところが『不』は、中国の働く女性に焦点を当てており女性視聴者の心を掴むことができるため、あえてドラマのストーリーにフェミニズムに関する内容を入れたと考えられる。中国のドラマ市場では、20代の女優を主役にするのがトレンドであり、30代とそれ以上の年齢の女優は、主役を務めることが少ない。これは、中国のSNSウェイボーで一時議論を巻き起こした。そんな当時の中国社会における話題に合わせ『Mother』がリメイクされたが、壮年女性の物語であることを強調するため、ドラマの内容の中心は主人公と二人の母との関係とリメイクされた。結局のところ、『不』も中国の一般的な家庭ドラマと同じように制作され、中国の既存のドラマジャンルと似たようにローカル化されたといえる。つまり中国では、現代女性をテーマにした社会派ドラマはまだ少ないと考えられる。

この三つのリメイクドラマはローカル化の工夫をしているが、そのために、原作ドラマとの関係性が薄くなっている。以前までのリメイクドラマは、あまりに原作に忠実に制作されたため、放送される国の視聴者は文化的・文脈的に違和感を感じざるをえなかった。それを鑑み、放送される国に合わせた文化的な内容をドラマ内に含ませたものの、ストーリー上必要のない部分も多く、冗長になってしまった。そのため、日本のドラマをリメイクする際には、内容のローカル化の質を把握・調節しなければならない。

## 5-2 リメイクドラマのジャンル選択

ローカル化の他に、リメイクドラマのジャンル選択も重要であるが、それには「消費」が深くかかわっている。これまでのリメイクドラマは、中国の視聴者に好まれるようドラマのジャンルが選択されたうえで、リメイクされてきた。しかし、日本のドラマと比べて、中国のドラマのジャンルは少ない。そのため、日本のドラマをリメイクする際、中国ではまだ少ないジャンルのドラマを選択する傾向がある。

中国では、時代劇と家庭ドラマが人気がある。特に時代劇の中でも、「タイ

ムスリップ」をテーマにした宮廷ドラマが人気を集めている。例えば、2011年に放送された『步步驚心（ブブジンシン）』というドラマは、21世紀の女性主人公がある日突然18世紀の清王朝にタイムスリップしてしまい、歴史上実在した九人の皇子たちに出会うことで皇位継承争いに巻き込まれてしまうという物語である。『步步驚心』は中国だけではなく、韓国や日本でも人気を博し、2013年『宮廷女官 若曦（ジャクギ）』という邦題でBSテレ東にて放送された。その後、2016年に『麗 花萌ゆる8人の皇子たち』のタイトルで韓国でリメイクされた。しかし、2011年、中国の広電総局がタイムスリップを題材にした映画やテレビドラマを禁止するという規定を設けた。その理由は、歴史やその改変を軽視につながる恐れがあるからである。また、現状に不満を抱く主人公がタイムスリップをし、過去に戻って生活するという内容は、現実逃避を唆すというマイナスな印象があるから、とも考えられる。

このように、中国ではドラマの題材に対して厳しい制限があるため、ドラマのジャンルが少ない。これまでとは異なるジャンルのドラマへの欲求を掻き立てられている中国の視聴者のため、多様なテーマを持つ日本ドラマのリメイクが始まった。芳賀ほか（2014）は、原作から展開や結末が分かっているのに、なぜ視聴者はリメイクドラマを視聴するのかについて、「現代韓国で社会問題となっている核家族化や少子高齢化、校内暴力、若者の失業、非正規職の増加などが、日本においては韓国より早く発生しており、そのような問題を題材にしたコンテンツもすでに市場に数多く流通しているという意味である<sup>36</sup>」と論じた。中国が日本のドラマをリメイクするのも、日本のドラマが取り上げている社会問題がまさに今の中国で発生している、という同様の理由からだと考えられる。そのため、まずは中国にないジャンルの日本のドラマをリメイクして、中国におけるドラマのジャンルを増やしていくという戦法がとられているといえる。

そして、中国では、社会問題をテーマとする国産ドラマが増えつつある。例えば、2017年放送された『人民の名義（日本語訳：人民の名のもとに）』という政治ドラマが話題となった。反腐敗の内容に、実際中国の政党での腐敗の現状を表しているドラマである。放送後には多くの人を魅了した。中国の腐敗問題がリアルに描かれているため、社会現状を風刺するドラマとなった。このようなドラマが制作されたことは、中国におけるドラマジャンルの変革促進につながっている。

もちろん、中国のドラマと異なるジャンルのドラマを選択して、リメイクすることも多いが、単純に日本で高い評価や視聴率を獲得した作品を選んでリメイクすることもある。しかし、日本で評価されているドラマが必ず中国でも人気を博すとは言えない。また、中国の状況に合わせることなく、原作ドラマの設定または日本の生活慣習をそのまま持ち込むのも、受容されがたい点である。例えば、『プロポーズ大作戦』がリメイクされた際には、主人公が学校の野球部に所属するという設定は、そのまま持ち込まれている。しかし中国の高校では、野球部はほとんどないため、視聴者の共感を得られない。また、原作ドラマで夏の花火大会を見に行くシーンなども、そのままリメイクドラマの中で再現された。しかし、中国では花火大会のようなイベントはないどころか、都市

<sup>36</sup> 芳賀恵・金周英・玄武岩（2014）「リメイク作品から見る日韓ドラマの「社会性」：『ハケンの品格』（日）と『職場の神』（韓）を題材に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18, p75.

部で花火を打つのは法的に禁止されている。このように日本の大衆文化をそのまま持ち込むのが、リメイクドラマの問題となっているところである。

その他、中国独自の審査制度に適応できるドラマを選ぶ傾向もある。つまり、リメイクする時に変更しなければならない内容の少ないドラマである。例えば、2020年10月に放送された『棋魂』というドラマは中国で高い評価を得たが、このドラマは日本の漫画『ヒカルの碁』の版權を購入し、リメイクしたドラマである。このドラマが特徴的なのは、『ヒカルの碁』は日本でもドラマ化されたことがなく、中国で初めてドラマ化されたということである。このドラマは「囲碁」をテーマに、中国の学校や碁会所など多くの専門的な知識を盛り込んだ作品である。作中、日本の平安時代の天才棋士・藤原佐為は、中国南梁時代の囲碁の第一人者・褚嬴（チュー・イン）とアレンジされた。漫画の内容には審査制度によって制限されるようなところはほとんどなかったため、プロの棋士を目指す主人公の姿を生き生きと描くという、原作のストーリー・世界観がそのまま引き継がれている。

リメイクドラマにおけるジャンル選択は、視聴者が多様なジャンルのドラマを求めているという理由のほか、中国の審査制度による題材制限にも影響されている。日本ではドラマを撮影しながら放送するため、放送後の評判により柔軟に対応できる。また、話題になった事柄もすぐドラマに取り入れることができ、ドラマの内容と現実の時間軸の差が少ない。総合的に、日本のテレビドラマは中国のものより柔軟性に富んでいると言えるのである。

## 結論

これまで中国で撮影、放送されてきたリメイクドラマは、原作ドラマと同じようには評価を得られず、賛否両論を巻き起こしてきた。その理由は、二つある。第一に、テレビドラマは審査制度に従ってリメイクするしかないという、中国の現状である。原作ドラマに含まれる、審査制度によって制限されてしまいそうな内容は、あらかじめ変更しなければならない。そのため、登場人物やエピソードも変更せざるを得ず、多く場合には原作ドラマを忠実にリメイクした作品ではないため、評判が低くなると考えられる。

第二に、ドラマのローカル化の程度を把握していないことである。リメイクドラマの尺が原作ドラマより大幅に増えるため、新しいエピソードや新しい展開などを入れられないといけないからである。このような新しい物語の展開は、実際に創作に近いものもある。そのため、賛否両論を引き起こした。

日々厳しくなりつつある中国の審査制度は、国産のドラマの多様性を抑制し、ドラマの発展を妨げる。日本の原作をリメイクすることは、婉曲的に審査制度へ反発することであるとも言えるであろう。また、近年では、ネット配信のみのインターネットドラマも増えている。審査制度が厳しいテレビ放送より、インターネットドラマの方が規制が緩いからである。テレビ放送の放送時間の枠組みに合わせる必要もないため、無駄に内容を増やす必要もない。例えば、『不』はインターネットドラマとして、1話につき35分、全22話でネット配信されている。他のリメイクドラマと比べ、日本の原作ドラマとほぼ同じ長さで撮影されており、基本的にエピソードの拡張などのオリジナルの内容を追加されな

かった。そして、『流星 2018』と『安家』はテレビとネット両方で配信されたが、放送時間としては『不』の倍以上に増えた。

2020年2月、広電総局がテレビドラマの放送話数を30話以内にすることを推奨し、40話を超えてはならないという新しい規定を追加し、放送話数を明確に制限しはじめた。そもそも、なぜ中国のテレビドラマの放送話数は日本や韓国と比べこれほどまでに多いのだろうか。中国における放送上の規定に合わせねばならないという理由の他に、二つの理由がある。一つ目は、スター俳優の出演料が高く、それにともないドラマ撮影のコストが上がるからである。ドラマの話数が多くなれば、収益も多くなる。そのため、たとえ20話でおさまる内容であっても、40話までに話数を引き延ばす。ところが、尺を伸ばすために大量のスローモーションが使用されるなど、ドラマの質は低くなる。2018年、スター俳優に対する不合理な演出料が制限され、ドラマの話数にも影響を及ぼした。第二の理由は、長編小説を原作にしたドラマが多いから、ということである。原作小説の内容自体が長いため、ドラマの話数もおのずと増える。テレビドラマの放送話数が制限されれば、今後中国におけるリメイクドラマが日本の原作ドラマと同程度の長さで制作される可能性もある。

中国における日本ドラマのリメイクから、中国のテレビドラマが抱える様々な問題を炙り出すことができた。リメイクドラマは、海外の優れた原作を参考にしてはいても、結局のところ中国の国産ドラマの規範にのっとり、その枠組みの中で制作されてしまうことで、国産ドラマが抱える問題からは逃れられずにいるのではないだろうか。

これまで、中国では韓国や日本のドラマがたくさんリメイクされてきた。ところが近年、中国のオリジナルドラマも、日本と韓国によってリメイクされるようになってきている。2016年、韓国では『步步驚心』がリメイクされたほか、『太子妃昇職記』もリメイクされ、2020年12月に放送が開始された。また日本では、ドラマ『微微一笑很傾城』がリメイクされ、2021年に『シンデレラはオンライン中!』のタイトルで、フジテレビにて放送予定となっている。このドラマはフジテレビと中国の動画共有サイト YOUKU が共同で制作し、フジテレビの動画配信サービス FOD と YOUKU 野両方で配信される。これまで海外では中国の古典作品などがリメイクされることが多かったが、近年では現代的なドラマ作品のリメイクも増えつつある。日本のドラマが様々な国によってリメイクされるのとは比べると、中国のドラマがリメイクされるケースはまだ少ないといえる。しかし、ドラマの制作方式の変革やリメイクドラマへの挑戦は、中国のドラマをより多様化すると考えられる。オリジナルのドラマが他国によって数多くリメイクされるようになる、ということは、今後の中国のドラマ市場における一つの目標であり、課題であろう。

## 参考文献

<参考文献一覧> (アルファベット順)

芳賀恵・金周英・玄武岩(2014)「リメイク作品から見る日韓ドラマの「社会性」: 『ハケンの品格』(日)と『職場の神』(韓)を題材に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18, p69-90.

飯田みか編集部 (2004) 「アジアを魅了した日本原産〈台湾ドラマ〉—痛切で、切なくて、女性のはまる『流星花園』(花より男子)』『新・調査情報 passingtime』2(47), p48-51.

封寿炎 (2015) 「一紙禁令就能“防早恋”？」『解放日報』.

岩渕功一(2003)『グローバル・プリズム〈アジアドリームとしての日本のテレビドラマ〉』平凡社.

岩男壽美子 (2000) 『テレビドラマの メッセージ』勁草書房.

鄭媚輝 (2017) 「「一人っ子政策」と中国人の出産・育児観の変化—中国広東省を事例に—」『言語と文明:論集』15, p81-99.

高菲(2009)「中国のテレビ業界の現状と傾向」『ACCU ニュース』No. 371, p6-7.

森明子(2012)『ワンテーマ指さし会話台湾×華流: とっておきの出会い方シリーズ』Joho Center Publishing.

王文蘭 (2006) 「消費文化の変革と中国における日本大衆文化の受容と普及」『アジア文化研究』13, p167-179.

ポール・ドゥ・ゲイ (著) 暮沢剛巳 (訳) (2000) 『実践カルチュラル・スタディーズ——ソニー・ウォークマンの戦略』大修館書店.

崔寶允 (2011) 「「ポスト・トレンドドラマ」としての韓流ドラマ」『外国文学』60, p1-13.

山田賢一(2013)「台湾のテレビドラマ制作最新事情～“空洞化”の中で中国との関係をどう築くか～」『放送と調査』63(9), p60-67.

米倉律(2008)「多文化社会における放送の役割に関する調査・研究に向けて」『放送研究と調査』58(11), p68-75.

<参考サイト一覧> (アルファベット順)

大藤ヨシヲ (2020) 「意外と知らない動画配信市場の今とは？動画配信先進国、中国のトレンドもご紹介！」

<https://data.wingarc.com/video-streaming-services-23534> (2020年11月9日取得)

長谷川朋子 (2018) 「中国の動画配信、若者は金を払ってネット動画を見る——違法コンテンツ大国は過去の話」日経トレンディネット

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00160/060600034/?P=2> (2020年11月9日取得)

フジテレビジョン (2018) 「ドラマ2作品を中国向けに共同制作へ映画の中国配給も——フジテレビとSMGピクチャーズ(中国)が戦略的パートナーシップを強化」

[https://www.fujitv.co.jp/company/news/181017\\_01.html](https://www.fujitv.co.jp/company/news/181017_01.html) (2019年11月20日取得)

近藤大介 (2018) 「間もなく、中国が3千万人の「余った男たち」で埋め尽くされる「一人っ子政策」の恐ろしい副作用」

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/56137> (2020年12月7日取得)

桑原利佳・POWER NEWS編集部「ひきこもり100万人超：日本では家族単位で社会から孤立する」

<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/c07401/> (2020年12月7日取得)

日本貿易振興機構(ジェトロ)上海事務所 (2015) 「中国コンテンツ市場調査

(6分野) 中国のテレビ番組および映像配信市場調査」  
[https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/Reports/02/1f66d82225adddff/02tv\\_shanghai6.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/Reports/02/1f66d82225adddff/02tv_shanghai6.pdf) (2019年11月7日取得)  
日本テレビ『家売るオンナ』公式サイト  
<https://www.ntv.co.jp/ieuru/> (2020年12月7日取得)  
王佳悦(2003)「中国のテレビ放送に関する考察」大場ゼミ卒業研究.  
[https://human.kyotogakuen.ac.jp/pdf/association/c2006\\_01.pdf](https://human.kyotogakuen.ac.jp/pdf/association/c2006_01.pdf) (2018年8月10日取得)  
崔保国(2010)「中国における日本のテレビドラマ」第19回 JAMCO オンライン国際シンポジウム.  
<http://www.jamco.or.jp/jp/symposium/19/6/> (2018年5月28日取得)  
佐藤賢・藤川衛・久能弘嗣・加藤皓也・鈴木輝良・矢後衛(2018)「友好・対立・協調…揺れた日中の40年」『日本経済新聞』  
<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/cj-postwar-history/> (2019年11月7日取得)  
中国ネットワーク視聴節目服務協会(2017)「中国ネットワーク視聴節目服務協会発『ネットワーク視聴節目内容審核通則』」  
<https://web.archive.org/web/20170630135640/http://www.cnsa.cn/2017/06/30/ARTI0Qg4cp7jtd1Z5o0RnfzM170630.shtml> (2020年10月19日取得)  
楊文杰「新版『流星花園』：一心想翻新或將成“流星”？」  
[http://ent.chinadaily.com.cn/2018-07/17/content\\_36591801.htm](http://ent.chinadaily.com.cn/2018-07/17/content_36591801.htm) (2020年10月19日取得)